

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 八〇四

八八八

ノ外無シト思考セラルルヲ以テ岩佐ヲンテ右ニ拠リ措置セシメラレ度尚ホ貴官ニ於テモ必要ノ際ハ適宜援助ヲ与ヘラレタシ

(別電)

十二月十三日内田外務大臣発在中国小幡公使宛電報第一五九

号 本契約締結期間六ヶ月延長協定ノ件

第一五一九号 別電

(一) 吉会鐵道本契約ノ締結ハ暫ク之ヲ見合セ予備契約規定ノ本契約締結ノ期間ヲ今日ヨリ更ニ六箇月間更新スルコトニ支那側トノ間ニ協定ヲ遂クルコト又六箇月後ニ至リ尚ホ交渉其時機ヲ得ザルトキハ更ニ適宜更新ノ方途ヲ講シ適當ノ機会到来ヲ俟ツコト

(二) 支那側ニ対シテハ吉会鐵道両主任問題ニ付テハ日本ニ於テ出来得ル限リノ讓歩ヲ為シ其妥結ヲ図ラムトシタルモ支那側ノ同意ヲ得ズ去リトテ支那側主張ノ通りニテハ到底公債發行ノ見込立タルニ付乍遺憾本契約ノ締結ハ暫ク後日ニ議リ此上共双方ニ於テ篤ト考慮スルコトシ其間前記ノ通期間ヲ更新スルコト致度トノ趣旨ニテ申入ルルコト

(三) 犹ニ支那政府ニ契約案ヲ提出シタル儘トナリ居レル滿蒙

四鐵道及山東二鐵道ニ付テモ吉会鐵道同様一併予備契約規定ノ期間更新ノ措置ヲ講スルコト

八〇四 十二月三十日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道本契約締結期間延長ハ一個年トシ度

旨稟申ノ件

第一六一五号

(十二月三十一日接受)

貴電第一五一八号ニ閲シ

式拾六日岩佐交通總長ニ面会シタルニ同總長ハ本件交渉打切リトナリタリトテ予備契約失効スルニ非ズ本件ハ其儘懸案トシテ存続スベキ旨頻リニ申述べ居リタル趣ナルモ口頭ノ証言丈ケニテハ覺束ナカルベシ殊ニ予備契約二期限ヲ明記シアルニモ鑑ミ其延長ハ別ニ書面ヲ以テ明約シ置クノ必要アルベク右總長ノ口吻等ニ微シ右様取運ビ得ル見込ミモ有之處前記貴電御來示ノ今日ヨリ六箇月丈ケノ延期ハ支那政府ノ現情ニ顧ミレバ稍々短キニ過ギズヤト存セラル尤モ此ノ期限経過後更ニ適宜更新ノ方法ヲ講ズルヲ得ザルニ非ザルベキモ其節又々多少ノ面倒ヲ重ヌベク然モ之ヲ必シ難カルベキニ付寧ロ此際今日ヨリ一箇年ヲ延期シ其間適當ノ

時期ニ於テ本契約ノ締結ヲ為シ得ル様取極メ置キタシト存ズ右ハ勿論差支ナキ儀トハ存ズルモ關係ノ向キトモ御協議ノ上至急何分ノ儀回示ヲ請フ

(一) 契約案第一条ニ就テ
左記

三、滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款關係

八〇五 一月三日

内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛

滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款契約案送付並右

二付注意スベキ点指示ノ件

附屬書一

二 山東二鐵道借款契約案

附 記 大正七年十二月三十一日内田外務大臣発小幡公使宛電報第一二〇二号

政機密送第一号

滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款ニ關スル件

本件借款問題善後方針ニ関シテハ客年往電第一二〇二号ヲ以テ申進置候處今般關係者協議ノ上別紙写ノ通リ滿蒙四鐵道借款契約案及山東二鐵道借款契約案作成致候ニ付右及送付候尚右契約案ハ追テ關係者ヨリ支那側ニ提出スル筈ニ有

^(註1)

ニヨレハ支那側ヨリ申出ツヘキコトト相成居レルニ付旁々金額ノ件ハ關係者ニ於テ尚調査ノ上支那側トモ協議シ定ムルコト然ルヘシトノ意嚮ナリ

(二) 契約案第二条ニ就テ

本契約調印後直チニ諸鐵道全部ノ工事ニ着手シ其ノ敷設ヲ

國ラムコトハ我金融其他ノ關係上到底困難ニ付其ノ緩急ヲ
圖リ着手線路ニ適當ノ順序ヲ定メザルヲ得ザルヲ以テ此ノ
目的ニ添フ為メ本条第二項ノ規定ヲ設ケタリ而シテ満蒙四
鐵道ト山東二鐵道トハ別々ニ其ノ第一ニ着手スヘキ線路ヲ
選フモノトス

(三) 契約案第十三条ニ就テ

先般予備契約成立ノ際支那側ニ交付セル満蒙四鐵道借款前
貸二千万円及山東二鐵道前貸二千万円ハ關係者ニ於テ予備
契約通り本契約成立後發行セラルヘキ公債募集金ヨリ優先
ニ全部ノ返済ヲ受ケ度希望ニテ即満蒙四鐵道前貸金ハ右四
鐵道中第一ニ着手スヘキ分ノ第一回公債中ヨリ又山東二鐵
道前貸金ハ右二鐵道中第一ニ着手スヘキ分ノ第一回公債中
ヨリ夫々全部ノ償還ヲ受クルモノトス

(四) (1) 契約案第二条着手ノ意義(2)第十五条技師長其他ノ傭
聘条件(3)同条工事請負人推薦ノ件等ニ就テハ客年十二月十
二日付政機密送第一八二号左記中(2)(4)(5)等参照アリタシ
本信写送付先 大藏省

美濃部朝鮮銀行總裁

土方 興業銀行總裁

山成 台湾銀行理事
竜居 满 鉄 理事 各通（一月三日附機密合送第
一號）
荒井 東亞興業社長

註 1 左掲ノ附記

2 前掲七三二文書附記五

(附屬書一) 滿蒙四鐵道借款契約案

滿蒙四鐵道借款契約案 (大正七年十二月二十五日作成)

大正七年九月式拾八日即チ中華民国七年九月式拾八日締結
セラレタル満蒙四鐵道借款予備契約ニ基キ中華民国政府
(以下政府ト称ス)ト日本國株式会社日本興業銀行、株式会
社台灣銀行及朝鮮銀行ノ三行(以下銀行ト称ス)ノ代表者
タル株式会社日本興業銀行トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ
第一条 政府ハ左記四鐵道ヲ建設スルニ必要ナル經費ニ充
ツル為メ銀行ヨシテ 分利付政府金貨公債 万円ヲ發
行セシムルモノトス

一、熱河ヨリ洮南ニ至ル鐵道

二、長春ヨリ洮南ニ至ル鐵道

三、吉林ヨリ海龍ヲ經テ開原ニ至ル鐵道

シ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支払フモノトス

本公債ハ中華民国政府 分利付満蒙四鐵道金貨公債ト
称シ發行ノ日ヲ以テ其日付トス

(備考)

熱洮鐵道ノ一地點ヨリ某海港ニ達スル鐵道ノ線路ハ未定
ナルモ若シ本契約締結迄ニ該線路確定セハ第一条第一項
四ニハ右線路ヲ記入スルコトトシ若シ未確定ナルニ於テ
ハ第二条末項ニ左ノ一項ヲ加フルモノトス

第二条末項 热洮鐵道ノ一地點ヨリ某海港ニ達スル鐵道
線路ハ政府ト銀行ノ協定ニヨリ決定スヘシ

第二条 本公債募集金ハ専ラ前条各鐵道ノ建設費(土地、

車輛其他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム)營業費及建設
中ニ於テ支払フヘキ本公債利子ニ充ツ

政府ハ本契約調印後六個月以内ニ本鐵道ノ建設ニ着手シ
速成ヲ謀リ實際着手ノトキヨリ拾個年間ニ全鐵道ヲ完成
スヘシ但シ何レノ線路ヨリ着手スヘキカハ別ニ之ヲ協定
ス

第三条 本公債ノ利率ハ額面金額ニ対シ一箇年百分ノ
ノ割合ヲ以テ本契約附表ニ從ヒ本公債發行ノ日ヨリ起算

九 対中國借款善後策ニ關スル件(三)八〇五

以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ
前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ書面ヲ

九 対中国借款善後策ニ関スル件(三) 八〇五

八九一

臨時債還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通債還抽籤ノ當日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第六条 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ヲ各期日十四日前ニ第三条及第四条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第五条ニ規定セル臨時債還ノ場合ニ於テモ亦期日十四日前ニ必要ノ元利金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ本公債元利金及割増金支払ノ費用ニ充ツルカ為メ其取扱金額ニ対シ毎回千分ノ二半ノ手数料ヲ銀行ニ支払フモノトス

第七条 政府ハ本公債ノ元利金支払ヲ無条件ニ保証シ本鉄道收入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支払ニ不足ヲ告クルトキハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足スルモノトス

第八条 本公債及第十四条ノ規定ニ基キ発行セラルヘキ公債ノ元利金ハ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ属スル一切ノ財産並本鉄道一切ノ收入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ前項ニ定メタル財産又ハ收入ヲ他ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

第九条 銀行ハ本公債全額ニ対シ銀行ニ於テ適宜定ムル額

キハ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ハ同額ノ副証書ヲ作成シ銀行ニ交付スヘシ右ニ關スル一切ノ費用ハ銀行ニ於テ之ヲ負担ス

第十条 本公債ノ政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

本公債ノ發行価格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ状況ニ依リ成ルヘク政府ニ有利ニ協定スルモノトス

第十二条 政府ハ本公債証書及利札並本公債元利金ノ受払ニ關シ一切ノ公課ヲ免除ス

第十三条 本公債募集目論見書、元利金支払其他ニ關スル詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ナキモノハ銀行ニ於テ日本駐劄中華民国公使ト協定スヘシ

第十三条 政府ハ本公債募集金ヲ以テ第一ニ満蒙四鉄道借款予備契約ニ依ル前貸金ノ支払ニ充当スヘク其残余ハ政府勘定トシテ銀行ニ預ケ入ルモノトス
銀行ハ前項預金中日本ニ於ケル残高ニ対シテハ本公債払込期日ヨリ起算シ年三分ノ利子ヲ附シ中華民国ニ送金セラレタルモノノ残高ニ対シテハ銀行ノ普通ノ率ニ従ヒ利子ヲ附ス

右預金及利子ハ其中ヨリ鉄道建設中ニ於ケル本公債利子支払及其取扱手數料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ督弁ノ指図ヲ待ツモノトス督弁ニ於テ一時ニ金武拾万円以上ヲ引出サントストキハ其引出期日十日前ニ之ヲ銀行ニ通知スルモノトス
保管金ノ引出ハ鉄道建設ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ性質及費額記載ノ証明書ヲ添付セル督弁及会計主任連署ノ銀行宛支払命令ニ依リ之ヲ為スモノトス
建設費毎月見積高ニ対スル資金ハ督弁ノ請求次第中華民國ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鉄道ノ用途ニ供セラル迄在中華民国銀行ニ於ケル預金ト為シ置クモノトス

第十四条 本公債募集金並其利子ニシテ建設中ニ要スル本公債利子ヲ控除シタル後本鉄道ノ建設及設備ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス苦シ尚不足ナルトキハ銀行ニ依リテ發行スル公債ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ其都度銀行ト協議スルモノトス

政府ハ各鉄道ニ督弁及総弁各一名ヲ任命ス督弁ハ常ニ当該鉄道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ依リ当該鉄道ニ閔スル事務ヲ行フ全権ヲ有ス総弁ハ督弁ヲ補佐シ督弁事故アルトキハ之ヲ代理ス

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ会計主任ニ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

会計主任ハ会計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ会計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

会計主任ハ本公債期間内督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ当該鉄道ニ閔スル一切ノ收支ヲ管理シ且其支出ニ付一切ノ書類ニ督弁又ハ総弁ト連署ス

銀行ハ本公債期間中各鉄道ニ監査人一名ヲ任命ス其僱給ハ銀行ノ負担トス

監査人ハ当該鉄道ノ計算書及証憑書ヲ検査スルモノトス監査人ハ銀行ニ對シテ本契約第二条ノ規定ニ依ル公債募集金ノ支出ノ正当ナルコトヲ証明シ且本契約第十七条ノ規定ニ基ク鉄道局外國材料購入ニ閔スル毎月明細書ヲ證明スルモノトス

弁ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

各鉄道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ督弁ハ其職ヲ解キ更ニ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ保線技師ニ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム保線技師ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ当該鉄道ノ保存ヲ掌ル

鉄道ノ計算書ハ日華両文ニテ協定済新式方法ニ依リ記載シ且一切ノ必要ナル証憑書ヲ添付スヘン

各鉄道ハ當業開始後毎会計年度ノ終了ニ際シ日華両文ヲ以テ記載セル当該鉄道ニ閔スル決算書ヲ公表スヘシ

第十六条 鉄道収入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル各鉄道局勘定ニ払込ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座勘定トシ其利率ハ隨時銀行ト協定スルモノトス

鉄道収入ハ先ツ本鉄道營業費及保存費ニ充テ其残額中ヨリ本契約附表ニ依ル元利金支払ニ要スル金額ヲ各期日六箇月前ニ銀行ニ預託シ尚剰余アルトキハ政府ハ督弁ノ決スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第十七条 銀行ハ本鉄道建設中外國ヨリ輸入スヘキ一切ノ材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定スルモノトス

監査人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ有効ニ遂行スルニ足ルヘキ時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキコトヲ鐵道局ト協定スヘシ

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ技師長ニ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ当該鉄道線路ノ測量設計及見積ヲ為シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ並鉄道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ヲ註文ス

技師長ハ技術部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ総弁ヨリ内外専門技術員ノ任免及其事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ附与セラルヘシ

技師長ハ工事請負人ヲ推薦ス

鉄道ノ各区域ハ其完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ督弁ニ引渡シ督弁ハ事情ノ許ス限り速ニ当該区域ノ運輸ヲ開始スルモノトス

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム運輸主任ハ督弁又ハ総

右購買物件中其重要ナルモノハ総テ督弁之ヲ入札ニ附ス

取扱者ハ本鉄道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入札約定又ハ註文ノ取扱ヲ為シ購買代金及其百分ノ五ノ取扱手数料ヲ受ク但註文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨリ督弁ニ申請シ其認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ鉄道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ価格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民國ニ到着後註文明細書ニ符合セサルトキハ鉄道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

外國材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其品質価格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ

送状及監査人証明書ハ之ヲ督弁ニ提出シ各種ノ割戻及割引ハ鉄道局ニ帰ス取扱者カ鉄道ノ為ニスル購買ニ付テハ総テ製造者ノ送状及監査人証明書ヲ以テ証憑トナス

取扱者ニ對シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給

セス但購買ニ關シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鉄道局ハ鉄道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ

若シ中華民國產材料及中華民國製品ニシテ其品質価格力日本品又ハ他ノ外國ノ製產物ト同一ナルトキハ中華民國産業獎勵ノ為メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ手數料ヲ支給セス

取扱者ハ本鐵道建設完成後ニ於テモ本債期間中ハ鐵道局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スルモノトス

第十八条 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約所載鐵道線路ノ支線又ハ延長線ヲ建設セントスル場合ニハ政府ハ中華民國ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リテ之ヲ建設セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

第十九条 銀行ハ本公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從テ本公債ニ關スル事項ニツキ鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タルヘシ

第二十条 本公債募集金ノ交付本公債元利金ノ支払其他總額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スモノトス

第二十一条 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市

場及中華民國政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公債發行ノ成効不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政府ト協定スル相當期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ右期間内ニ仍ホ其發行ヲ見サルニ於テハ本契約ハ之ヲ無効トス此場合ニ於テ政府ハ滿蒙四鐵道借款予備契約ニ依ル前貸金ニ利子ヲ附シテ返済スル外銀行ニ對シ別ニ何等ノ報償ヲ與ヘサルモノトス

第二十二条 銀行ハ本契約ニ依リテ有スル權利ノ全部又一部ヲ其負担スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得但右讓渡又ハ委任ハ督弁ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十三条 本契約ハ大正年月日即チ中華民国年月日大總統令ニ基キ調印シタルモノニシテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ中華民國駐劄日本公使ニ通告ヲ經タリ

本契約書ハ日華兩文ヲ以テ各參通ヲ作成シ其内各式通ヲ政府ニ各壹通ヲ銀行ニ保存ス若シ本契約ノ解釈ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決スルモノトス

日本帝国大正年月日
中華民國年月日
財政総長
交通総長
株式会社日本興業銀行總裁

印 印

(附屬書二)

濟順高徐二鐵道借款契約案

(大正七年十二月二十五日作成)

大正七年九月廿八日即チ中華民國七年九月廿八日締結セラ

レタル濟順高徐二鐵道借款予備契約ニ基キ中華民國政府(以下政府ト称ス)ト日本國株式会社日本興業銀行、株式會社台灣銀行及朝鮮銀行ノ三行(以下銀行ト称ス)ノ代表者タル株式会社日本興業銀行トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第一条 政府ハ左記二鐵道ヲ建設スルニ必要ナル経費ニ充ツル為メ銀行ヲシテ 分利付政府金貨公債 円ヲ發行セシムルモノトス

一 山東省濟南府ヨリ直隸省順德ニ至ル鐵道

第四条 本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置キ其翌

九 対中國借款善後策二關スル件(三) 八〇五

年ヨリ向フ参拾箇年内ニ本鉄道ノ収入又ハ政府ノ適当ト認ムル他ノ財源ヨリ本契約附表所載ノ金額ヲ年賦ニ依リ償還スルモノトス但第五条ノ場合ハ此限ニアラス

第九条第二項ニヨリ数回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ第二回以後ノ据置期間及償還期間ハ第一回發行ノ日ヨリ起算スルモノトス

第五条 本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ経過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二十年目迄ハ額面金額ニ対シ百分ノ二半ノ割増金即チ金壱百円ニ付金武円五拾錢ヲ元金償還ノ外ニ支払ヒ第二十一年目以降ハ割増金ヲ要セサルモノトス前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ書面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ当日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第六条 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ヲ各期日十四日前ニ第三条及第四条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

国語ヲ以テ之ヲ印刷シ交通總長ノ署名及交通部印ヲ印写ス又日本駐劄中華民国公使ハ本公債証書發行ニ先タチ各証書ニ署名及官印ヲ印写シ以テ本公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコト及政府ヲ拘束スルコトヲ證明シ銀行モ亦本公債發行取扱者トシテ其代表者ノ署名及職印ヲ印写スヘシ

本公債証書ハ其流通ニ便ナランムル為メ証書ニ日華以外ノ外国语ヲ以テ額面金額其他要項ヲ記載スルコトヲ得

銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ日華以外ノ外国语ニ於テモ發行スルコトヲ得
本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ニ通知シ且同証書ノ支払停止ヲ新聞紙上ニ広告シ並ニ關係國ノ法律慣習ニ從ヒ便宜又ハ必要ト認ムル措置ヲ執ルヘシ右公債証書ニシテ銀行ノ定メタル期間内ニ發見セラレサルトキハ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ハ同額ノ副証書ヲ作成シ銀行ニ交付スヘシ右ニ闇スル一切ノ費用ハ銀行ニ於テ之ヲ負担ス

第十一条 本公債ノ政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格ヲ成シ銀行ニ交付スヘシ右ニ闇スル一切ノ費用ハ銀行ニ於テ之ヲ負担ス

第十二条 本公債ノ政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格

政府ハ第五条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日十四日前ニ必要ノ元利金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ政府ハ本公債元利金及割増金支払ノ費用ニ充ツルカ為メ其取扱金額ニ対シ毎回千分ノ二半ノ手數料ヲ銀行ニ支払フモノトス

第七条 政府ハ本公債ノ元利金支払無条件ニ保証シ本鉄道収入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支払ニ不足ヲ告クルトキハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足スルモノトス第八条 本公債及第十四条ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債ノ元利金ハ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ属スル一切ノ財産並本鉄道一切ノ収入ニ依リテ第一位ニ担保セラル政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ前項ニ定メタル財産又ハ収入ヲ他ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

第九条 銀行ハ本公債全額ニ対シ銀行ニ於テ適宜定ムル額面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得
銀行ハ工事ノ計画並其進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応シ本公債ヲ一回又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得
本公債証書ノ様式ハ銀行ニ於テ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ト之ヲ協定スルモノトス本公債証書ハ日華両

ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

本公債ノ發行価格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ狀況ニ依リ成ルヘク政府ニ有利ニ協定スルモノトス

第十一条 政府ハ本公債証書及利札並本公債元利金ノ受払ニ關シ一切ノ公課ヲ免除ス

第十二条 本公債募集目論見書、元利金支払其他ニ闇スル詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ナキモノハ銀行ニ於テ日本駐劄中華民国公使ト協定スヘシ

第十三条 政府ハ本公債募集金ヲ以テ第一ニ済順高徐ニ鉄道借款予備契約ニ依ル前貸金ノ支払ニ充当スヘク其残余ハ政府勘定トシテ銀行ニ預ケ入ルモノトス

銀行ハ前項預金中日本ニ於ケル残高ニ対シテハ本公債払込期日ヨリ起算シ年三分ノ利子ヲ附シ中華民国ニ送金セラレタルモノノ残高ニ対シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從ヒ利子ヲ附ス

右預金及利子ハ其中ヨリ鐵道建設中ニ於ケル本公債利子支払及其取扱手數料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ

ニ金武拾万円以上ヲ引出サントスルトキハ其引出期日十

日前ニ之ヲ銀行ニ通知スルモノトス
保管金ノ引出ハ鉄道建設ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事
ノ性質及費額記載ノ証明書ヲ添付セル督弁及会計主任連
署ノ銀行宛支払命令ニ依リ之ヲ為スモノトス
建設費毎月見積高ニ對スル資金ハ督弁ノ請求次第中華民
国ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鉄道ノ用
途ニ供セラル迄在中華民国銀行ニ於ケル預金ト為シ置
クモノトス

第十四条 本公債募集金並其利子ニシテ建設中ニ要スル本
公債利子ヲ控除シタル後本鉄道ノ建設及設備ヲ完成スル
ニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス
若シ尚不足ナルトキハ銀行ニ依リテ發行スル公債ヲ以テ
之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ其都度銀行ト協議ス
ルモノトス

第十五条 本鉄道ノ建設及管理ハ政府ニ於テ之ヲ行フ
政府ハ各鉄道ニ督弁及総弁各一名ヲ任命ス督弁ハ常ニ當
該鉄道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ
依リ当該鉄道ニ閑スル事務ヲ行フ全權ヲ有ス総弁ハ督弁
ヲ補佐シ督弁事故アルトキハ之ヲ代理ス

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ会計主任ニ任命ス
其備聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

会計主任ハ会計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之
ニ依リテ任命ヲ行フ会計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ
定ム

会計主任ハ本公債期間内督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ当該鉄
道ニ閑スル一切ノ収支ヲ管理シ且其支出ニ付一切ノ書類
ニ督弁又ハ総弁ト連署ス

銀行ハ本公債期間中各鉄道ニ監査人一名ヲ任命ス其俸給
ハ銀行ノ負担トス
監査人ハ當該鉄道ノ計算書及証憑書ヲ検査スルモノトス
監査人ハ銀行ニ對シテ本契約第二条ノ規定ニ依ル公債募
集金ノ支出ノ正当ナルコトヲ證明シ且本契約第十七条ノ
規定ニ基ク鉄道局外國材料購入ニ閑スル毎月明細書ヲ証
明スルモノトス
監査人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ有効ニ遂行スルニ足ル
ヘキ時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキコトヲ鉄道局ト協定
スヘシ
督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ技師長ニ任命ス其
明スルモノトス

傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ総弁ノ
命ヲ承ケ当該鉄道線路ノ測量設計及見積ヲ為シ且一切ノ
工事ヲ指揮監督シ並鉄道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ
物件ヲ註文ス

技師長ハ技術部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ
依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム
技師長ハ督弁又ハ総弁ヨリ内外専門技術員ノ任免及其事
務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ権限ヲ附与セラルヘ
シ

技師長ハ工事請負人ヲ推薦ス

鉄道ノ各区域ハ其完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ督弁ニ
引渡シ督弁ハ事情ノ許ス限り速ニ当該区域ノ運輸ヲ開始
スルモノトス

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス
其備聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム運輸主任ハ督弁又ハ総
弁ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル
各鉄道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ督
弁ハ其職ヲ解キ更ニ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ保線
技師ニ任命ス其備聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム保線技師
取扱手数料ヲ受ク但註文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨ

ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ当該鉄道ノ保存ヲ掌ル
鉄道ノ計算書ハ日華両文ニテ協定済新式方法ニ依リ記載
シ且一切ノ必要ナル証憑書ヲ添付スヘシ
各鉄道局ハ營業開始後毎会計年度ノ終了ニ際シ日華両文
ヲ以テ記載セル當該鉄道ニ閑スル決算書ヲ公表スヘシ
第十六条 鉄道收入ハ遲滞ナク之ヲ銀行ニ於ケル各鉄道局
勘定ニ払込ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座勘定トシ其利
率ハ隨時銀行ト協定スルモノトス
鉄道收入ハ先ツ本鉄道營業費及保存費ニ充テ其残額中ヨ
リ本契約附表ニ依ル元利金支払ニ要スル金額ヲ各期日六
箇月前ニ銀行ニ預託シ尚剰余アルトキハ政府ハ督弁ノ決
スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第十七条 銀行ハ本鉄道建設中外國ヨリ輸入スヘシ
材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定スルモノ
トス
右購買物件中其重要ナルモノハ總テ督弁之ヲ入札ニ附ス
取扱者ハ本鉄道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ
入札約定又ハ註文ノ取扱ヲ為シ購買代金及其百分ノ五ノ
取扱手数料ヲ受ク但註文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨ

リ督弁ニ申請シ其認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行
フヲ得ス

取扱者ハ鉄道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外国材料ノ
購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ価格最低ニシテ品質良好ナ
ルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民国ニ到着後
註文明細書ニ符合セサルトキハ鉄道局ハ之ヲ拒絶スルコ
トヲ得ルモノトス

外国材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ当リ其品質価格同
一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ
送状及監査人証明書ハ之ヲ督弁ニ提出シ各種ノ割戻及割
引ハ鉄道局ニ帰ス取扱者カ鉄道ノ為ニスル購買ニ付テハ
総テ製造者ノ送状及監査人証明書ヲ以テ証憑トナス
取扱者ニ対シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給
セス但購買ニ関シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鉄道局ハ
鉄道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ
若シ中華民國產材料及中華民國製品ニシテ其品質価格力
日本品又ハ他ノ外國ノ製產物ト同一ナルトキハ中華民國
産業獎勵ノ為メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取
扱者ニ手数料ヲ支給セス

第十九条 銀行ハ本公債証書所持人ノ受託者タルモノトス
從テ本公債ニ閑スル事項ニツキ鉄道局ト銀行トノ間ニ交
渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タ
ルヘシ

第二十条 本公債募集金ノ交付本公債元利金ノ支払其他總
テ金額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スモノトス
第二十一条 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市
場及中華民國政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又
ハ經濟上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本
公債發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政
府ト協定スル相當期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得

株式会社日本興業銀行總裁 印

註 右満蒙四鐵道及山東二鐵道各借款契約案ハ大正七年十二月

二十四日外務省ニ於ケル打合會ノ主旨ニ依リ日本興業銀行
ニ於テ作成シタルモノナリ

(附 記)

大正七年十二月三十一日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報
第一二〇二号

満蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題ニ閑スル善後方針決定ニ付右
措置方ニ關シ指示並工事着手ノ順序ニ關シ意見提示方要請ノ件

第一二〇二号

九月二十八日予備契約ノ調印ヲ了セル満蒙四鐵道及山東二
鐵道借款問題ニ付テハ今般往電第一(註一)山東二鐵道ニ付
方針ニ則リ措置スルコトニ決定セリ尤モ(註一)山東二鐵道ニ付
テハ資金ノ閑スル限り朝鮮、興業、台灣三銀行ニ於テ閑与
スルモ技術運輸等ノ実務ニ閑スルコトハ東亞興業ニ於テ担
任スルコト從テ同鐵道技師長運輸主任会計主任等ハ東亞ヨ
リ夫々推薦スルコトトナルヘシ(尚本鐵道ニ付テハ中日實
業側ニ於テ引受ケ度希望アリタル模様ナルモ右ハ東亞側ニ

於テ中日側トノ間ニ可然始末スル筈ナリ)(本件諸鐵道借
款本契約ハ四鄭鐵道借款契約ヲ標準トスルコト)(本件諸鐵道借

九 対中国借款善後策二閑スル件(三) 八〇五

中華民國 年月日
財政總長 印
交通總長 印

第二十三条 本契約ハ大正年月日即チ中華民

国年月日大總統令ニ基キ調印シタルモノニ
シテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ中華民國駐劄日本公
使ニ通告ヲ經タリ
本契約書ハ日華兩文ヲ以テ各參通ヲ作成シ其内各式通ヲ政
府ニ各壹通ヲ銀行ニ保存ス若シ本契約ノ解釈ニ閑シ疑義ヲ
生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決スルモノトス

日本帝国大正年月日

道予備契約ニヨレハ借款本契約締結期限ハ明年一月二十七日ヲ以テ満了スル筈ナル処明年一月早々關係者ニ於テ貴地ニ赴キ往電第一^(註2)一三八号末段吉会鐵道借款交渉着手ノ筈ナルヲ以テ之ト同時ニ右關係者ヨリ以上諸鐵道借款本契約ヲ支那側ニ提出シ直チニ交渉ニ着手スル予定ニ付本件諸鐵道ニ閔シ貴官ヨリ支那側ニ致スヘキ通告ニ付テハ右期限満了前適当ノ日取ヲ選ミ關係者ト打合ノ上可然取計ハレ度シ尚本省ヨリ満鉄東亜及三銀行ニ対シ右ニヨリ至急措置方夫々通達セリ將又吉会鐵道借款交渉ニ付テハ往電第一一二六号ノ通リ三銀行代表者ニ於テ其ノ任ニ当ルコト相成居リタル處三銀行側ハ鐵道ニ閔スル経験乏シキ為メ支那側ト会商ノ際種々不利不便アルヲ免レザルベキニ付旁々右交渉ニ付テハ三銀行代表者ノ外三銀行代理者タル資格ニテ満鉄社員ヲモ差加ヘ共ニ會議ニ列席セシメ三銀行代表者ヲ援助スルコト然ルヘシトノ大蔵大臣ノ意見ニモアリ吉会鐵道ヲ初メ満蒙四鐵道及山東二鐵道交渉ニ付テハ右ノ方法(但シ山東二鐵道交渉ニ付テハ東亜興業社員ニ於テ参加スルコト)ニ拠ルヘキ旨關係者ニ示達セリ就テハ本件交渉ニ着手ノ上ハ貴官ニ於テモ適宜御援助ヲ与ヘラレ度シ尚又以上諸鐵道ハ

本省ヨリ満鉄東亜及三銀行ニ対シ右ニヨリ至急措置方夫々

通達セリ將又吉会鐵道借款交渉ニ付テハ往電第一一二六号

ノ通リ三銀行代表者ニ於テ其ノ任ニ当ルコト相成居リタル處三銀行側ハ鐵道ニ閔スル経験乏シキ為メ支那側ト会商

ノ際種々不利不便アルヲ免レザルベキニ付旁々右交渉ニ付

テハ三銀行代表者ノ外三銀行代理者タル資格ニテ満鉄社員

ヲモ差加ヘ共ニ會議ニ列席セシメ三銀行代表者ヲ援助スル

コト然ルヘシトノ大蔵大臣ノ意見ニモアリ吉会鐵道ヲ初メ

満蒙四鐵道及山東二鐵道交渉ニ付テハ右ノ方法(但シ山東

二鐵道交渉ニ付テハ東亜興業社員ニ於テ参加スルコト)ニ

拠ルヘキ旨關係者ニ示達セリ就テハ本件交渉ニ着手ノ上ハ

貴官ニ於テモ適宜御援助ヲ与ヘラレ度シ尚又以上諸鐵道ハ

契約調印ヲ見ルトモ直チニ全部工事ニ着手シ其ノ敷設ヲ図ラムコトハ我金融其他ノ關係上到底困難ナルヘキニ付其ノ緩急ヲ計リ着手線路ニ適當ノ順序ヲ定ムルノ外ナキ處右ハ目下本省ニ於テ考慮中ニテ關係各方面ノ意見ヲ徵シ居レルカ一応貴見ヲモ承知致度ニ付何分ノ義回電アリ度シ

註1 前出七三二文書附記一

2 同右文書附記二

八〇六 一月十五日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤坂公使
在牛莊酒匂領事
各宛

満熱線海港連絡鐵道借款ニ閔スル情報写送付

並英國側及中國側ノ動向注視方訓令ノ件

附屬書 右參謀本部情報

政機密合送第四号

満熱線海港連絡鐵道借款ニ閔スル件

本件ニ閔シ參謀本部ヨリ別紙写ノ如キ情報ニ接シタルニ付

御参考迄ニ同写茲ニ及送附候間委細右ニテ御承知ノ上本件

ニ付スル英國側並支那側ノ態度ニ付絶エス注意ヲ加ヘラレ

候様致度此段申進候也

(附屬書)

(參謀本部情報)

満熱線海港連絡鐵道借款ト英支ノ反対

満熱鐵道ノ一地点ヨリ海港ニ達スル鐵道ハ他ノ満蒙ニ於ケル鐵道ト共ニ日本ノ資金ニテ敷設セントシ既ニ日本銀行団ト支那政府トノ間ニ二千万円ノ前貸借款契約(総額一億五千万円ニ対シ)締結セラレ未タ細目ニ閔スル議定ヲ終ラザルニ先チ其内容發表セラレタル為該海港連絡鐵道借款ニ対シテ二個ノ反対頭ハレタリト伝フ而シテ其反対者ノ一ハ英國ニシテ一ハ支那ノ旧交通系及奉天督軍張作霖熱河都統姜桂題並海軍等ニ係リ反対理由ト称セラルモノ左ノ如シ

一、英國ノ反対

満熱線海港連絡鐵道ト云フハ満熱予定線ノ一駅ヨリ新邱ヲ經由シ連山湾ニ至ル鐵道ナルヘク日本カ該鐵道ヲ敷設セシメントスルハ連山湾ヲ新邱炭ノ輸出港トナスコト猶秦皇島ノ開灘炭抗ニ於ケルカ如クシ炭量一億二千万噸ト称セラル該坑ノ石炭ヲ連山湾ヨリ支那各地及日本ニ輸出販売セントスルモノナリ又從來京奉線ヲ經由シ天津ニ集リタル熱河及内蒙ノ物資モ該鐵道ノ開通ニヨリテ連山

ハ大窯溝ノ運炭鐵道ヲ買收シ連山湾ニ連絡スヘキ迂回線ヲ取ルヤモ測リ難キヨリ該鐵道ノ持主タル通裕公司ニ付シテハ嚴重ナル監視ヲ附スルノ必要ヲ感シツツアリト伝

ヘラル

一、支那内部ノ反対

支那内部ノ反対ハ或ハ党争關係或ハ軍事的見地或ハ偏狭ナル國家主義等ニ起因シ頗ル煩雜ナル事情ノ下ニアルヨリ反対理由モ一樣ナラサルモ其共通点ヲ擧クレハ左ノ如

イ、連山湾ハ元来大連ニ対抗スヘク築港ニ着手セラレタ
ル港湾ナリ然ルニ該港ノ支配権ヲ日本ニ譲ル時ハ支那
ハ營口ヲ除キテハ他ニ物資集散ノ港湾ナキニ至リ結局
満蒙ハ經濟的ニ日本ノ掩有スル所トナラン

ロ、連山湾ハ軍港トシテハ必シモ適當ナラス然レトモ
渤海灣ニ一ノ軍港ヲ有セサル支那海軍ハ該港ヲ以テ軍
港トナササルヲ得ス

ハ、連山湾ハ曩ニ支那自ラ之ヲ開放スルコトヲ宣言セル
モノナレハ該宣言ヲ実行スルヲ要ス

八〇七 一月十五日 在中國小幡公使宛（電報）

滿蒙山東各鐵道借款交渉ノ為岩佐理事北京出

第三四号 張ニ付援助方ノ件

客年往電第一二〇二号ニ閲シ

本件交渉ノ任務ヲ帶ヒ三銀行代表者岩佐興業銀行理事及松
本同行員一月十三日当地出發貴地ニ向ヘリ（一月十九日頃
貴地着ノ予定ナル趣ナリ）將又本件交渉ニ付テハ同代表者

ニ於テ隨時貴館ト打合ヲ遂ケ其指図ヲ俟テ措置シ且契約ノ
根本ニ触ルルカ如キ重要ノ事項ニ限り貴官ヨリ本省ニ請訓
セラルコトト致度三銀行側ヘモ右ノ通り示達シ置キタル
ニ付右ニ御含ノ上適宜御援助アリ度シ

八〇八 一月十六日 荒井東亞興業社長ヨリ

山東二鐵道借款契約案ニ対スル修正意見及着

工順序等ニ關シ東亞ヨリ興銀ヘノ申出書写提

出ノ件

附屬書 一 濟順及高徐二鐵道ニ付協議決定事項

二 右二鐵道工事着手順序ノ件

三 濟順鐵道黃河鐵橋ノ件

濟順高徐二鐵道ノ件

右二鐵道ノ件ニ付弊社ニ於テ更ニ研究ノ結果別紙（甲）箇
条書ノ通り起案致シ日本興業銀行へ提出致候間御承知置被

下度候又右二鐵道工事着手順序ノ件及濟順線黃河鐵橋ニ關スル件

ニ付別紙写（乙）、（丙）ノ通り日本興業銀行へ申出置候

右御聞置被下度候 敬具

大正八年一月十六日

東亞興業株式会社

社長 荒井賢太郎（印）

政務局長 増原正直殿

（欄外註記）

「高密徐州線ノ件ハ目下考慮ニ付支那側ヨリ此ノ点ニ付我意嚮
ヲ求メタル時ハ請訓ノ上ニアラサレハ明答スルコトナキ様興業
銀行ヨリ北京代表者ニ訓令方、小野副總裁ト打合済、大正八年
一月二十日（栗野印）」

（附屬書一）

別紙（甲）

濟順、高徐二鐵道ニ付協議決定事項

（大正八年一月十四日）

一、督弁、技師長及会計主任ニ閑シ左ノ通り修正スルモ一
案ナルコト

督弁、技師長及会計主任ハ二鐵道ヲ總轄シ其下ニ各鐵道
毎ニ總弁、副技師長及副會計主任各一人宛ヲ任命スルコ
ト

ト
本二鐵道建設工事ヲ總轄スヘキ鐵道局ハ濟南ニ置クヘキ
コト

九 対中国借款善後策ニ關スル件（三）八〇八

(附屬書二)

別紙(乙)写

済順及高徐二鉄道工事着手順序ノ件

大正八年一月十五日

東亞興業株式会社

社長 荒井 賢太郎

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵殿

拝啓 済順高徐二鉄道工事着手順序ノ件

済順高徐二鉄道本契約締結ノ上ハ同契約案第二条第二項但書ノ規定ニ依リ前記二線ノ内何レヨリ着手スヘキカラ協定スルノ必要有之候処済順線ハ調査ノ結果変更スルコトアルヘキモ高徐線ハ其必要之ナルヘキニ依リ高徐線ヲ以テ最先着手ノ線路ト致度済順線ハ同時ニ踏査ニ着手シ比較線ノ研究ヲナスヘキコトト致度此段得貴意候 敬具

(附屬書三)

別紙(丙)写

済順鐵道黄河鐵橋ノ件

大正八年一月十五日

東亞興業株式会社

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵殿

済順鐵道黄河鐵橋ノ件

拝啓

済順鐵道(又ハ其変更線)ハ濟南附近ニ於テ黄河ヲ横断スルノ必要有之候處黄河ニ架スヘキ鐵橋ハ工事ニ約五年ヲ要スルノミナラス工事費モ漠大ニ上ルヘキ見込ニシテ鉄道ノ工事上並ニ經營上ノ見地ヨリスレハ濟南駅以北ノ津浦鐵道線路相当区間及黄河鐵橋ヲ本鉄道ニ共用スルヲ以テ最モ経済的措置ト相信シ候ニ付テハ本契約調印ト同時ニ別紙案文ノ通り別契約ヲ締結被致候様致度存候此段得貴意候尚万

一新線路ニ專屬ノ鐵橋ヲ要スルモノトスルモ之カ架設ニハ長年月ヲ要スル次第付其間一時津浦線鐵橋ヲ使用スルモノテ肝要ノ事ト存候ニ付是亦併セテ御考慮相成度候 敬具

(別紙)

済順、高徐二鉄道ト隣接鐵道トノ聯絡ヲ完全ニシ相互ノ利益ヲ増ナス

本二鉄道ト隣接鐵道トノ聯絡ヲ完全ニシ相互ノ利益ヲ増ナス

進スルノ目的ヲ以テ政府及銀行ハ左記ノ事項ヲ約定ス

一、政府ハ高徐鐵道ト津浦鐵道及海蘭鐵道トノ線路及運輸ノ聯絡ヲ完全ニスヘキコト

二、政府ハ済順鐵道ト津浦鐵道及京漢鐵道トノ線路及運輸ノ聯絡ヲ完全ニスヘキコト但シ第二条第三項ニ依リ敷設線路ヲ変更シタル場合ニ於テモ政府ハ其線路ト是

ニ隣接スル各線路トノ線路及運輸ノ聯絡ヲ完全ニスヘキコト

三、政府ハ津浦鐵道濟南駅以北ノ線路相当区間又ハ黄河

鐵橋ヲ済順鐵道ニ共用スヘキコト

但シ第二条第三項ニ依リ敷設線路ヲ変更シタル場合ニ於テモ亦同シ

八〇九 一月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)
黄河鐵橋架設問題ニ關シ三銀行及東亞興業ヨリ
別契約案提出希望ニ付通報ノ件
第七九号

今回三銀行及東亞興業側ヨリ黄河鐵橋架設ノ難工事ナルニ
住電第三四号ニ関シ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(三) 八〇九 八一〇

九一〇 対中国借款善後策二関スル件(三)八一一

山東二鉄道ノ着工順序ニ関シ當方意見ヲ中國側ニ提示ノ必要アル場合ハ請訓セラレタキ件

中何レヲ先キニ着手スヘキヤノ問題ハ政府ニ於テ未タ決定

ニ至ラザルニ依リ支那側ニ當方ノ意見ヲ示ス必要ノ場合ニハ其前ニ尚一応當方ノ意見ヲ問合セラレタシ

案ニナリ差支ナキ旨外務省ヨリ承諾ヲ得タリ又山東二鉄道ハ其前ニ尚一応當方ノ意見ヲ問合セラレタシ

八一一 一月二十三日

(山梨陸軍次官ヨリ
幣原外務次官宛)

山東二鉄道敷設ニ関スル大島青島守備軍司令

附屬書 大正七年十二月二十三日付大島青島守備軍司令官ヨリ田中陸軍大臣宛公信民総秘第四八号

秘陸軍省送達欧発第五七号

(一月二十四日接受)

山東鐵道延長線及高徐線敷設ニ関スル件通牒

大正八年一月二十三日 陸軍次官 山梨半造(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

首題ノ件ニ關シ別冊写ノ通青島守備軍司令官ヨリ意見上申有之候間為参考及送付候也

1、濟順線

本線ハ其延長百五十六哩ニシテ之ヲ濟彰線ノ百六十六哩及濟道線ノ百六十九哩ニ比スレハ其ノ距離ニ於テ最も近ク京漢線ニ達スルノ利アリ且本線ノ通過地域タル山東西部及直隸南部ハ廣袤千里ノ沃野ニシテ棉花、大豆、羊毛及皮革等ノ產出頗ル多ク又其ノ終点タル順德ハ遠ク蒙古方面ヨリ來ル毛皮類ノ著名ナル集散地タルノ利アリ且本線ハ正定ヨリ太原ニ通スル正太鉄道ヲ利用スル点ニ於テ稍便ナルノ感アルモ元來本線ノ通過地帶ハ地勢上天津ノ勢力範囲ニ屬シ此等ノ物資ハ青島ニ香吐スルヨリモ天津ニ出入スルコト遙ニ便利ナルヲ以テ仮令本線ヲ敷設スルヲ悉ク之ヲ青島ニ奪フコトヲ得サルヘク殊ニ支那側ノ經營セントスル石家庄滄州間ノ所謂石滄鐵道完成ノ暁ニ於テハ全ク本線ノ価値ヲ失フニ至ルヘク更ニ将来本線ヲ京漢線以西ニ延長スル場合ヲ顧慮スルトキハ此附近ニ於ケル大行山脈ハ嶮峻ニシテ鉄道ノ敷設殆ト不可能ナルノ不利アリ

2、濟彰線

本線ノ沿道ハ濟順線ニ比シ物資稍劣ルノ感アリト雖尚

追テ当省ノ意見トシテハ山東鐵道延長線ハ濟彰線ヲ採ル方適當ナルヘシト被考候条申添候

(附屬書)

写

民総秘第四八号

山東鐵道延長線及高徐線敷設ニ関スル件上申

大正七年十二月二十三日

青島守備軍司令官 大島健一

陸軍大臣 田中義一殿

山東省諸問題處理ニ關スル実施上ノ一般意見等ニ關シテハ十一月十六日附青參第三三二号ヲ以テ及上申置候處尚別紙意見及上申候也

(別 紙)

山東鐵道延長線及高徐線敷設ニ關スル意見

一、延長線ノ選択ニ關スル事項
山東鐵道延長線トシテ予想セラルモノハ從来屢々論議セラレツツアル濟順線(濟南順德線)、濟彰線(濟南彰德線)及濟道線(濟南道口線)ノ三ニシテ此等各線ノ利害ヲ比較研究スレハ左ノ如シ

本棉花、小麦、大豆、絹製品、羊皮、絨類及果実ノ產額少カラス更ニ西方ニ延長シ潞安ヨリ石炭ノ主產地タル沢州ニ至リ一ハ候馬鎮ニ於テ同成鐵道ノ予定線ニ達シ他ハ清化鎮ニ迂回シテ道清鐵道ニ連絡スルトキハ相当他ノ利益線タルヲ得ヘシト雖モ彰德以西ノ延長ハ大行山脈ノ余波ヲ受クルヲ以テ其ノ工事困難ナルノミナラス彰德以西ノ物資ハ貧弱ナルノ不利アリ

3、濟道線

本線ノ沿道ハ棉花、羊毛、皮革、麦稈真田、果実、生糸及雜穀等ノ土產物多ク殊ニ黃河ヲ除クノ外殆ト河流ナク其ノ工事最モ容易ナルノ利アリ固ヨリ本線ハ黃河ニ並行スト雖モ之力為其ノ価値ヲ減スルニアラス蓋シ支那ノ河流運輸ハ決シテ鐵道ニ対抗スル能ハス既ニ遼河、衛河、淮河及漢口等往時隆盛ナリシ水運モ鐵道ノ敷設ニ依リテ大ニ衰退ニ帰セルヲ以テ推知シ得ヘケレハナリ殊ニ本線ハ道清鐵道ニ連絡スルヲ以テ該鐵道ヲ我勢力範囲ニ收メ得ルニ於テハ沿線ノ石炭、鐵等ノ鉱物ヲ吸收スルヲ得ヘク又新鄉ト鄭州ニ於テ京漢、海蘭ノ二大幹線ニ会スルヲ以テ黃河ヲ流下スル奥地ノ貨物

ヲ吸收スルノ利益アルノミナラス更ニ進ンテハ道清線ノ延長ニ伴ヒ西安方面ニ對スル最捷交通機関タルノ要機ヲ具備スヘク尙ホ又軍事上ノ見地ヨリスルモ山東省方面ヨリ黄河々孟ニ策動スル作戦軍當然ノ責務トシテ漢口及西安方面ヨリスル支那軍ニ對シ其ノ行動ヲ律セサルヘカラサル關係ニアルヲ以テ此目的ニ合致セシムル鉄道ハ本線ヲ措テ他ニ求ムヘカラサルナリ

之ヲ要スルニ山東鉄道ノ延長線ハ我対支鐵道政策上済道線ヲ選択スルヲ以テ最モ適當ナリト断スルニ憚カラサルナリ然リト雖モ該線ハ道清線ニ對スル經營上ノ実權ヲ獲得シ之ヲ帝国ノ勢力範囲ニ帰セシムルニアラズンハ其ノ価値著シク減少スヘキヲ以テ本延長線決定ノ前提問題ハ果シテ道清鉄道及北京「シンヂケート」ノ借款優先権ヲ我掌中ニ収メ得ルヤ否ニ存スト謂ハサルヘカラス若シ道清鉄道ニ對スル交渉困難ニシテ到底其ノ実權ヲ回収スルノ見込ナシトセハ寧口済彰線ヲ敷設スルヲ以テ有利且安全ナリト認ム

（附記）

一、道清鉄道ト焦作炭鉱ニ就テ
道清鉄道ハ北京「シンヂケート」（福公司）カ支那政府

西省官憲トノ間ニ締結シ将来鉄業製鉄及物資輸送ノ為メ外国ノ資本ヲ要スルトキハ予メ先ツ「シンヂケート」ニ謀ルヲ要スル旨ヲ規定セリ此物資ノ輸送ハ鉄道ヲ意味スルヤ明ナリ

以上ノ如ク道清鉄道ハ支那政府ニ於テ既ニ権利ヲ回収シタルモノニシテ千九百十七年ヨリ公債ノ償還ヲ為シ得ルモノナレハ支那政府ニ於テ其ノ公債ヲ償還シテ北京「シンヂケート」ヨリ鉄道ノ管理権ヲ回収スルコトヲ得ヘント雖モ前記ノ如ク将来鉄道ヲ清化鎮以西ニ延長スル場合ニ於テ北京「シンヂケート」ハ借款ノ優先権ヲ有スルコトハ最モ注意ヲ要スル点ナリトス

焦作炭鉱ハ千八百九十八年河南採鉱條約ニ依リ福公司ノ経営スルモノ及支那中原公司ノ経営スルモノヨリ成リ当初福公司ハ採鉱獨占ヲ目的トシ種々ナル奸策ヲ弄セシモ其ノ効ヲ奏セス結局中原公司トノ間ニ分採合売ノ契約ヲ為シ福中公司ナル共同販売公司ヲ組織シ販売ニ関シテハ總テ本公司ノ手ヲ経ルコトシタルモノナリ而シテ該炭鉱ノ現況ハ福公司ノ新式炭坑一、中原公司ノ土法手堀炭坑三アリテ大正六年十一月中旬ノ交一日約三千噸ノ採炭

ノ許可ヲ得テ運鉱ノ目的ノ為ニ道口鎮ヨリ清化鎮ニ至ル間ニ敷設シタル鉄道ナリシモ九百五十年七月三日ノ協定ニ依リ支那政府ハ北京「シンヂケート」ヨリ本線路ヲ買戻シ其ノ代價トシテ五歩利附金貨公債ヲ交付シ該公債ヲ償還シ終ル迄鉄道ノ管理権ヲ「シンヂケート」ニ委スルコトセリ本鉄道ノ建設費ハ六拾一万四千磅ニシテ支那政府ハ之ニ對シテ七十万磅ノ公債ヲ發行シ「シンヂケート」ハ之ヲ九十ノ割合ニテ引受ケタリ公債ノ期間ハ三十年トシ千九百十七年ヨリ償還スルコトナリ鉄道所有権ハ支那鐵路局ノ手ニ帰シタリト雖モ「シンヂケート」ニ於テ經營スル間ハ純益ノ二割ヲ受クル権アリ、尚ホ此公債ノ契約中ニハ「シンヂケート」カ沢州附近ニ於テ鉄山ヲ開掘スル期日確定シタルトキハ「シンヂケート」ハ清化鎮沢州間鉄道ノ建設其ノ他ニ要スル資金ヲ供給スヘキ旨ヲ規定セリ支那官憲ハ右ノ如ク鉄道ノ回収ヲ為スト同時ニ從来ノ「シンヂケート」ニ与ヘタリシ山西省ニ於ケル種々ノ特權ノ回収ヲ圖リ幾多ノ交渉ノ後遂ニ山西省ニ於ケル鉄山採掘権ニ對シテ二百七十五万両ヲ与ヘテ之ヲ拠棄セシメタリ之ト同時ニ一契約ヲ「シンヂケート」山

二、黃河架橋工事ニ關スル事項

鉄橋ヲ架設スルノ要アリ然ルニ之ガ架橋工事ハ極メテ困難ニシテ其ノ完成ニハ數年ノ歳月ヲ要スヘキニ依リ架橋工事ノ竣工ヲ待ツハ延長線ノ經營上甚タ不利益ナルヲ以テ其ノ間津浦鉄道ノ既設黄河鉄橋ヲ利用シ本線ニ連絡シ得ル如ク予メ支那政府ノ承諾ヲ得置クコトハ延長線敷設上必要ノコトト信ス

三、山東鉄道日支合弁ニ關スル事項

山東鉄道ノ經營ヲ日支合弁ト為スニ付其ノ方法ヲ按スルニ日支両国政府ノミノ出資ニ依リ共同經營ト為スコト及日支両国人ノ出資ニ依リ鉄道会社ヲ組織シ以テ私人經營ト為スコトノニアリ而シテ其ノ何レニ依テ經營スヘキカ慎重考究ヲ要スヘキモノトス由來支那ニ於ケル鉄道ハ單ニ運輸業務ヲ営ムニ止ラス之ト關係アル外国ノ政治的並ニ經濟的活動ノ原動力為リ常ニ對支政策遂行ノ中枢タルノ使命ヲ有スルモノナリ是列國ノ鐵道問題ニ腐心スル所以ニシテ吾鉄道經營モ能ク此ノ趣旨ニ基キ帝國ノ大陸發展ニ貢献スル所ナカルヘカラス而シテ之カ為ニハ帝国ノ対支政策ノ大局ニ鑑ミ他ノ公設機関ト歩調ヲ共ニシ相携ヘテ日支両国共同ノ福利ヲ増進シ地方開發ノ實行ニ當

ルヲ緊要トスヘク從チ其制度組織ハ最モ此ノ目的ニ順応セルモノヲ採用セサルヘカラス若シ其ノ制度組織ニシテ行政機關ト鐵道トノ聯絡ヲ欠キ其方針区々ニ出ツルコトアランカ单ニ鐵道經營ニ支障ヲ來スノミナラス行政機關ノ活動ヲ阻害シ邦人ノ發展ヲ妨ケ政策ノ遂行ヲ蹉跌セシムヘシ殷鑑遠カラス南満洲ニ於テ閩東都督府領事館及南満鐵道會社ノ間ニ互ニ権限ヲ争ヒ勢力ヲ競ヒ所謂三頭政治ノ弊ヲ醸シ其ノ結果屢々吾対支政策ニ齟齬ヲ生セシメ邦人ヲシテ其ノ適從スル所ニ迷ハシメタル如キ其ノ罪全ク制度組織ニ在リト云ハサルヲ得ス而モ南満洲ハ支那ニ取りテハ殆ト化外ノ地ニシテ且帝國ノ勢力圈内ニ屬シ鐵道會社ハ又帝國政府ノ特別ノ保護ノ下ニ立チ他國ノ一指ヲ染ムルヲ許ササリシモノナリ此ノ場合ニ於テスラ其ノ弊ノ及フ所既ニ斯クノ如シトセハ山東ノ如キ支那大陸中央部ニ位シ帝國勢力ノ扶植日尚ホ浅ク英米等ノ列國其ノ輔ニ乗セントスル地方ニ於テ日支合弁ノ団体ニ依リ吾対支政策ヲ行ハントスル場合ハ一層曩キノ覆轍ニ顧ミ思ヲ此處ニ致スノ更ニ切ナルモノアルハ言ヲ俟タス青島ノ發展如何ハ濟南ニ於ケル我施設ト最モ密接ノ關係

ヲ有シ且青島ニ於ケル市街及港湾等ノ設備ハ一二山東鉄道ノ發展ニ伴フヘキヲ以テ青島ノ行政機關、山東鉄道經營者及濟南其他沿線ニ於ケル領事館ノ三者ハ一体ト成リ其ノ執務振ニ付一定ノ統一の方針ノ存在スルノ必要ナルコトハ昨年守備軍ト領事館トノ間ニ意嚮ノ一致ヲ欠キタル為公法上決シテ不可ナキ民政問題スラ言論者ノ巢窟ナル濟南地方ニ於テ大問題ヲ惹起シタルニ反シ近ク守備軍ト公使館、領事館トノ間ニ於テ他ヨリ乘セラルヘキ間隙ナキ為メ麦及麦粉ノ輸出又ハ金嶺鎮軽鉄ノ如キ難問題モ容易ニ解決シタル実例ニ依リ之ヲ明ニシ得ヘシ此故ニ山東鉄道ノ經營ハ彼ノ鴨綠江採木公司ノ例ニ依リ日支両国政府ノミノ出資ヲ以テスル合弁組織ト為シ其ノ出資額ノ大部分ハ我政府ニ於テ負担シ該機關ノ長ハ青島地方ニ於ケル帝国施政ノ長タル地位ニ在ル者ニ当リ同時ニ濟南及沿線其ノ他ノ領事ヲシテ鉄道經營ノ業務ヲ兼任セシメ以テ帝國利權ノ發展ヲ円満ナラシムルヲ必要トス而シテ山東鉄道ノ合弁ニ付日支両国政府ノミノ出資ヲ可トシ民間ノ資本ヲ以テスル私立会社ヲ不可ナリトスル所以ハ他ナシ由來私立会社ナル場合ニハ株主ニ對スル配当ヲ顧慮

四、延長線及高徐線ノ日支合弁ニ關スル事項

由來支那ノ鐵道經營ハ極メテ拙劣ニシテ有利ナル線路モ其ノ利益ヲ挙クルコト能ハサル現況ナリ是鐵道從事員カ公德心乏シク或ハ運送人ト結托シ或ハ收賄ヲ計ル等ノ弊害行ハレ其ノ私囊ヲ充スニ汲々トシテ敢テ鐵道ノ利益ヲ

九 対中国借款善後策二関スル件（三）八一二

九一六

顧ミサルカ為ナリ故ニ鉄道ヲ日支合弁ノ經營ト為スコトハ支那ノ為ニモ有利ノ事ナリトス既ニ山東鉄道ヲ日支合弁經營ト為スニ於テハ宜シク支那ヲシテ更ニ延長線及高徐線モ亦合弁經營ト為サシムルヲ要スノ如クシテ支那中原ニ於ケル両国提携ノ鐵道カ他ノ借款鉄道ニ比シテ著シキ好成績ヲ挙クルニ当テハ支那ノ満足ヲ得ルヤ必スヘク我對支鐵道政策上極メテ有利ナリト謂ハサルヘカラス

五、借款契約ニ関スル事項

延長線及高徐線ノ借款契約ハ千九百十四年六月本線路ニ

関シテハ獨支間ニ締結セラレタル借款契約ニ準拠スルヲ

要ス

六、両線ノ工事実施ニ關スル事項

延長線及高徐線ハ孰レモ支那ノ中原ニ臨ム經濟線ニシテ竣功ノ曉ハ我國ノ對支貿易ハ青島ヲ立脚地トシテ非常ノ發達ヲ為スヘク我國工業界ノ最モ必要ヲ感スル鐵、石炭、棉花、羊毛及雜穀等ノ土產ハ統々トシテ輸入セラルルニ至ルヘシ故ニ細則ノ協定ヲ速ニシテ協定成立スルヤ直ニ工事ニ着手スルヲ要ス

七、鐵道借款本契約締結委員ニ關スル事項

支那政府トノ覚書實施細目協定ニ際シテハ當民政部官吏ヲ委員ニ加ヘ協定ニ干与セシメラレムコトヲ望ム右ハ實際ノ情況ヲ明カニシ将来鐵道ノ經營ニ關シ便宜ヲ伴フニ至ルヘク且支那側ノ實行ヲ督励スル点ニ於テ最モ利益ト認ム

八一二 一月二十四日

内田外務大臣ヨリ

山東二鐵道ノ着工順序ニ關シ山東鐵道部ノ意

見ヲ徵セラレ度旨依頼ノ件

山東二鐵道借款問題ノ件

山東二鐵道借款問題ハ其ノ他ノ滿蒙地方鐵道問題ト共ニ一月八日政機密送第九号ヲ以テ及御通報置候方針ニヨリ近々關係者ニ於テ支那政府トノ間ニ交渉開始ノ筈ニ有之候處之等諸鐵道ハ我金融等ノ關係上本契約成立ヲ見ルモ直チニ全部工事ニ着手スルコト不可能ニ付其ノ緩急ヲ圖リ先後ヲ定期ルノ外無之候然ルニ山東二鐵道即チ濟南延長線及高密徐州線敷設ニ付テハ當業者側ニ於テハ先ツ高密徐州線ノ工事ニ着手シタキ意嚮ナル処右ニ付テハ山東鐵道部側ノ意見ヲ

モ一応為参考承知致置度期日切迫シ居レルニ付貴省ヨリ右至急意見上申方山東鐵道部へ御訓達相煩度此段及照会候也

八一三 一月二十四日

山田満鐵本社文書課長ヨリ

満蒙四鐵道借款契約案ニ對スル満鐵本社ノ意

見書送付ノ件

今回日本銀行團ト北京政府トノ間ニ締結セラレタルヘキ満蒙四鐵道ノ契約草案ニ付スル當社ノ意見ハ別紙ノ通りニ有之右意見書前以テ御送付可致ノ処岩佐理事來連ノ通知ニ接シ候ニ付當地ニ於テ同理事ニ一応御話致置候へハ充分ト存シ發送見合ハセ同理事先般來連ノ節御話致置候尚今後契約締結ニ就テハ岩佐理事ヨリ專ラ貴地銀行團トノ間ニ意見ヲ交換セラルル事ニ可相成ニ付自然本書類参考ノ為入用ノ場合モ生スヘキカト存候ニ付為念別紙御送付申上候 敬具

（別 紙）
満蒙四鐵道借款契約案ニ關スル満鉄本社ノ意見書
セラルル事ニ可相成ニ付自然本書類参考ノ為入用ノ場合モ生スヘキカト存候ニ付為念別紙御送付申上候 敬具

大正八年一月二十四日

理事長工学博士 国沢新兵衛

九 対中國借款善後策ニ關スル件（三）八一三

「本鐵道ノ線路ハ政府ト銀行ノ協定ニヨリ決定スヘシ」

東京支社 龍居理事殿

九一七

ト規定スルカ如キハ不体裁ナリ鉄道建設予算ノ測定不充分ニシテ借款金額ト建設実費トノ懸隔甚シキコトモ亦体裁上面白カラサルノミナラス其ノ極メテ多額ナルト又少額ナルトヲ問ハス支那ノ為メ不親切ニシテ或ハ反テ之力為ニ不慮ノ故障ニ際会スルコトナキヲ保シ難カルヘシ

二、本鉄道借款予備契約ハ本契約締結ニ際シ其ノ遵拵スヘ

キ借款契約ヲ指定セスコレ亦本契約ノ締定ニ先チ決定ス

ルノ必要ハナキヤ而シテ若シ遵拵契約ヲ決定スルトセハ

米支借款契約ヲ採ルヲ最良トシ四鄭借款契約ヲ第二トス

三、本案ニ依レハ其ノ予定鉄道ノ総テニ就テ本契約ヲ締結

シ同時ニ全予定鉄道ノ建設ニ着手セラレムトスルモノノ

如シ果シテ之レ可能ナリヤ仮令可能ナリトスルモ能ク経済的ナラシムルヲ得ヘキヤ即チ各鉄道別ニ本契約ヲ締定

スルヲ可トス而シテ各鉄道ニ就キ各別ニ本契約ヲ締定スルトセハ二千万円ノ前貸金ハ如何ニ処分セラルルヤ之ヲ

哩程ニ応シテ各鉄道ニ按分計上セラルレハ兎モ角若シ或

一鉄道ニ計上セラルル時ハ該鉄道ハ其ノ負担ニ苦シムコ

トアルヘシ要スルニ前貸金ハ之ヲ鉄道建設資金ニ組入レ

ス別途勘定ト為スコト必要ナリ

要之本契約締定ニ際シテハ予メ調査スヘキ事項及支那側トノ間ニ協定スヘキ事項多々アルカ如シ殊ニ熱洗鉄道ノ一地点ヨリ某海港ニ達スル鉄道ノ如キ英國トノ利害關係アリ予メ周到ナル研究ヲ遂クルニアラスンハ藏蛇ニ終ルヤモ計リ難シ尚本予定線ノ経過地點ニ就テハ会社或種ノ計画ト密接ナル關係アリ予メ周密ナル協議ニ与ラムコトヲ望ム

第二、逐条編

一般方針トシテハ会社ハ米支借款契約ニ遵拵シ度キコト吉

会ノ場合ト異ナラサルモ以上ノ点ヲ措キ本案自体ヲ觀察スレハ左ノ如シ

第二条

第一項。營業費ハ開通費ナラム吉会ノ場合ニ準ス

第五条

第一項。「本公債未償還ノ全部又ハ」ハ「本公債未償還額ノ全部又ハ一部ハ」ノ誤ナラム「第二十年目」「第二

十一年目」ハ夫々「第二十年」「第二十一年」ナラム

第十四条

第十項。「本鉄道線路ノ測量、設計及見積ヲ為シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ云々」ハ「本鉄道線路ノ測量設計見

積ヲ為シ工事ノ施行方法ヲ決定シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ云々」トシ度シ蓋シ技師長ノ権限ヲ大ナラシメム為ナリ

第十六項。保線技師ハ工務主任ト改メ度シ蓋シ吉長ノ場合ニ照シ用語上ノ統一ヲ図ラム為ナリ

第十二項ヲ削除シ第十六項ノ次ニ別項トシテ「技師長工務主任会計主任及運輸主任ハ各所管事務所内人員ノ任免給与賞罰等一般人事ニ付詮衡考査ヲ遂ケ督弁又ハ総弁ニ稟申シ督弁又ハ総弁之ニ依テ処理スルモノトス」ヲ加ヘ度シ蓋シ内外所要人員ノ統制ヲ図リ而シテ独リ技師長ニ止マラス右幹部ノ権限ヲ大ナラシメム為ナリ

更ニ次項トシテ「本鉄道開通前会計主任及運輸主任ハ技師長ノ指揮ヲ受ク」ト追加シ度シ蓋シ建設工事中幹部ノ統制ヲ図ラム為ナリ

第十六条

第二項ヲ削除シ度シ

第三項ヲ「取扱者ハ本鉄道ノ代理人トシテ其ノ取扱例ニ依リ本鉄道ノ為最そ有利ナル条件ヲ以テ云々」ト改メ度シ蓋シ前項ノ削除ト相俟チ取扱者ノ性質ヲ明ニシ且其ノ

九 対中国借款善後策ニ関スル件(三) 八一五 八一六

行代表者ニ申聞ケラレ度シ

八一五 一月二十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

洮熱線海港連絡線問題ニ関シ請訓竝満蒙及山東各鐵道借款契約案先方ニ提出ノ件

第一二〇号

貴電第九六号後段ニ關シ御來示ノ次第ハ洮熱線ノ一点ヨリ海港ニ至ル線路ノ決定ハ今回ノ會議ニ於テ全然商議セザル方可然トノ御趣旨ト了解セラルモ為念折返シ何分ノ御回電アリタシ尚山東満蒙各鐵道契約案ハ今二十五日三銀行代表ヨリ交通總長ヘ提出シ同時ニ外交總長ニ對シテモ本使ヨリ吉会線ノ場合ト同様ノ公文ヲ送致スルコトナレリ

八一六 一月二十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

満蒙山東鐵道借款本契約締結方中国政府ニ申

入ノ件

附属書 一月二十五日在中国小幡公使ヨリ
理宛書翰第一二号

(二月一日接受)

機密第四五号

大正八年一月二十五日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

山東及満蒙鐵道借款本契約締結方ニ關シ支那政府

ヘ申入ノ件

本件ニ關シテハ往電第一二〇号後段既電ノ次第有之候処予定ノ通り本月二十五日ヲ以テ夫々手続ヲ了シ候間右様御承知相成度尚ホ本使ヨリ外交總長代理ニ宛テタル書面ハ別紙写ノ通ニ有之候間御查閱相成度此段及報告候也

本信写送付先

大藏省

満鉄東京支社竜居理事

三銀行(鮮銀、台銀、興銀)

東亞興業 白岩竜平

附属書

別紙写

第一二二号

大正八年一月二十五日

八一八 一月二十八日 在中国小幡公使館員王鴻年ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ハ山東二鐵道ノ敷設ヲ中日實業ニ於

テ担任スル様希望ノ趣ナルニ付右真相突止方

訓令ノ件

附記一 大正七年十二月十四日在本邦中國公使館員王

鴻年ヨリ壇原政務局長ヘノ申出

二 一月二十五日在本邦中國公使館員王鴻年ヨリ

壇原政務局長ヘノ再申出

第一一二号

洮熱線海港連絡線問題ニ關シ回訓ノ件

第一〇四号(至急)

貴電第一二〇号ニ關シ

洮熱線ノ一点ヨリ海港ニ至ル線ハ何レノ線路ヲ選定スルヤハ暫ク後日ニ譲リ今回締結スヘキ借款契約ニハ客年往電第八二六号乙項(四)ノ通リノ文句ヲ其儘記載シ置クニ止メ度趣旨ナリサレハ支那側ヨリ右線路ノ選定方申出テタルトキハ右ハ前記乙項(四)ノ括弧内ノ通り追テ調査ノ上決定スルコト致度トノ趣旨ニテ応酬スルコト然ルヘシ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(三) 八一七 八一八

九二一

九二〇

九 対中国借款善後策二関スル件(三)八一八

九二二

回更ニ支那公使館ヨリ日本政府ニ於テハ東亜ヲシテ担任セシムルコトニ内定ノ趣ニ付東亜中日合同シテ当事者タランムルコトヲ得ザルヤ是亦单ニ支那ノ一ノ希望トシテ申入ルヘキ趣本国政府ヨリ電訓アリタル旨竝右ハ支那ニ於テ東亜ニ対シ何等悪感アル次第ニアラズ中日ハ支那ト特別ノ緣故モアリ且実ハ中日ニ於テ深ク之ヲ希望スルニ依ルモノナル旨申出テアリ尤モ是レ迄中日ヨリハ自己ノ意図ニ付テハ何等申出ナシ然ルニ本件ハ支那政府本来ノ希望ナルニ於テハ同鉄道敷設ニ付テハ土地買収其ノ他東亜側ニ於テモ支那政府ノ好意ヲ必要トル事項モ勘カラザルヲ以テ或ハ中日ヲシテ東亜ニ協議セシメ中日加入ノ方法ヲ講ズルノ途モ絶対ニナキニハ非ザルヘキモ先ツ以テ本件ハ中日申出通り支那政府自發的ノ希望ニ出テタルモノナルヤ又ハ其ノ實中日自身ノ希望ニシテ中日ニ於テ支那政府ヲ動カシカカル措置ニ出デシメタルモノナリヤ其ノ辺ノ真相承知シ度ニ付我方ニ於テ何等「コムミット」セザル様且各方面ノ感触ヲ害セザル方法ニヨリ可然御突止アリ度シ

(附記一)

大正七年十二月十四日在本邦中国公使館員王鴻年ヨリ埴原政務

シムルコトニ何等惡感アル次第ニアラズ中日ハ支那ト特別ノ緣故モアリ且実ハ中日ニ於テ深ク之ヲ希望スルニ依ルモノナル旨申出テアリ尤モ是レ迄中日ヨリハ自己ノ意図ニ付テハ何等申出ナシ然ルニ本件ハ支那政府本来ノ希望ナルニ於テハ同鉄道敷設ニ付テハ土地買収其ノ他東亜側ニ於テモ支那政府ノ好意ヲ必要トル事項モ勘カラザルヲ以テ或ハ中日ヲシテ東亜ニ協議セシメ中日加入ノ方法ヲ講ズルノ途モ絶対ニナキニハ非ザルヘキモ先ツ以テ本件ハ中日申出通り支那政府自發的ノ希望ニ出テタルモノナルヤ又ハ其ノ實中日自身ノ希望ニシテ中日ニ於テ支那政府ヲ動カシカカル措置ニ出デシメタルモノナリヤ其ノ辺ノ真相承知シ度ニ付我方ニ於テ何等「コムミット」セザル様且各方面ノ感触ヲ害セザル方法ニヨリ可然御突止アリ度シ

十二月十四日支那公使館秘書官王鴻年來省埴原政務局長ニ對シ支那政府ハ山東鐵道延長線ノ建設等ニ関シテハ中日実業会社ニ於テ之ヲ担任スルコトナラハ甚夕好都合ト思考シ居レルガ右ハ要求トシテ申出ヅル次第ニ無之唯支那政府ニ於テ斯カル希望ヲ有スルコトヲ貴國ニ達シ置クニ外ナラザル旨申出デタリ

(附記二)

一月二十五日在本邦中國公使館員王鴻年ヨリ埴原政務局長ヘノ再申出

一月二十五日支那公使館一等書記官王鴻年來訪先般埴原政務局長ニ対シ高徐及濟順兩鐵道ハ東亜興業ヲシテ当ラシムルヨリハ中日実業ヲシテ当ラシムルコトヲ支那政府トシテハ希望スル旨本国政府ヨリ電報アリタル旨竝本鐵道借款ハ日本ノ都合ニヨリ当事者定マルコト故支那トシテハ決シテ右ノ希望ヲ強テ主張セムトスル訊ニハアラザル旨申述ヘ置キタルガ最近又北京ヨリ電報アリ日本政府ハ東亜ヲシテ当ラシムルコトニ内定ノ趣故此際東亜中日合同シテ当事者タラシムルコトヲ得ザルヤ是亦单ニ支那ノ希望トシテ申入ル

ヘキ旨訓令アリ依テ更ニ右ノ次第日本政府ノ考慮ヲ仰キ度

白岩竜平殿

旨ヲ述ヘ且支那ニ於テ東亜ニ対シ何等惡感アル次第ニアラズ中日ハ支那ト特別ノ緣故アリ且中日モ之ヲ希望スルニ依ルモノナル旨附言セリ

因ニ本件ニ關スル客年十二月十四日付倉知中日副總裁ヨリ内田外相宛來信ニヨレハ本件ハ全ク支那政府自身ノ希望ナル様ノ意味記載シアリ中日ノ意嚮ニ付テハ何等言明シアラズ又東亜興業白岩竜平氏ヨリハ本件当事者問題ニ付テ東亜中日間ニ何等意見ノ扞格ナキ旨曩ニ來信ノ次第アリタリ

八一九 一月二十九日

(倉知中日実業副總裁ヨリ)

山東鐵道延長線共同引受ニ付諒解アリタキ旨

申入ノ件

附記 二月十日白岩東亜興業社長ノ外務省係官ニ対ス

大正八年一月二十九日

ル談話

中日実業株式会社

倉知鉄吉

東亜興業株式会社

九 対中国借款善後策二関スル件(三)八一九

十二月十四日支那公使館秘書官王鴻年來省埴原政務局長ニ對シ支那政府ハ山東鐵道延長線ノ建設等ニ關シテハ中日実業会社ニ於テ之ヲ担任スルコトナラハ甚夕好都合ト思考シ居レルガ右ハ要求トシテ申出ヅル次第ニ無之唯支那政府ニ於テ斯カル希望ヲ有スルコトヲ貴國ニ達シ置クニ外ナラザル旨申出デタリ

局長ヘノ申出

九二三

九 対中国借款善後策二関スル件(三) 八二〇

(附記)

二月十日白岩東亞興業社長ノ外務省係官ニ対スル談話

一月二十九日中日実業会社ヨリ提出セル山東鉄道延長線布設担任者ニ閲スル書面中本問題ニ付テハ過般已ニ東亞興業会社ヨリ中日ニ交渉ノ次第アリ且下引続キ両社間ニ協議進行中ナル旨記載アリタルヲ以テ此ノ点二月十日東亞興業白岩竜平氏ニ確メタル処本件ニ付テハ客臘外務省示達ノ方針ニ遵ヒ措置致居リ中日側ヨリ屢々割込方申出アルモ右ハ政府示達ノ方針ニ違フ次第二付乍遺憾応諾シ難キ旨倉知氏ニ挨拶シ居レルモ中日ト曹汝霖トノ関係ニ顧ミ中日側ノ意嚮ヲ全然無視スルコトモ不得策ニ付東亞中日共同ト云フカ如キ方法ハ応シ兼ヌルモ材料ノ供給等一定ノ利益ノ提供ハ辞スルモノニアラサルニヨリ折角商議中ノ次第アルモ東亞ヨリ中日側ニ向テ両者共同引受ノ如キ案ヲ交渉シタルコトナキハ勿論ナル旨答ヘタリ

八二〇 一月三十日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
洮熱線海港連絡線ハ今回ノ交渉ニ於テ協定シ
置ク方得策ト認メラルニ付請訓ノ件

八二一 二月三日 土方興銀總裁ヨリ
埴原政務局長宛

満蒙四鉄道及山東二鉄道借款契約案ヲ曹交通
総長ニ手交並吉会鐵道借款交渉ニ付岩佐理事
ヨリノ報告書提出ノ件

附属書 一月二十六日付在北京岩佐理事ヨリ土方興銀給
裁宛右報告書

秘第一六号 (二月四日接受)

株式会社日本興業銀行

總裁 土 方 久 徹

政務局長 塙原正直殿

拜啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通リ受信仕候間写御送

附屬書

一月二十六日附在北京岩佐理事ヨリ土方總裁宛書信第一号写

滿蒙及山東各鉄道借款契約案ヲ曹交通総長ニ手交並吉会鐵道借款契約案ノ交渉ニ付報告ノ件

拜啓本月十三日東京出発後京城ニテ一泊十八日予定ノ如ク

九 対中国借款善後策二関スル件(三) 八二一

第一五一号

(一月三十一日接受)

貴電第九六号山東及ヒ満蒙鉄道工事着手先後如何ニ付テハ追テ更ニ卑見申進スヘキモ本使ノ見ル所ニ拠レハ洮熱線ノ一点ヨリ某海港ニ到ル一線ノ径路ニ付テモ今回ノ商議ニ於テ協定ヲ遂ケ置ク方然ルヘシト思考スル必有之尤モ右ニ対シテハ篤ト諸般ノ関係ヲ考慮スル必要アルハ勿論ナルモ之ヲ全然他日ノ商議ニ譲ラシム解消ヲ遷延セシムルニ於テハ或ハ実行上種々予見シ得ザル困難ノ生ズルコト無キヲ保シ難ク実ハ一月二十八日本使曹汝霖ニ邂逅ノ際曹モ本件ニ言及シ該線路ニ付テハ英國トノ関係ヲ顧慮セザルベカラザルニ付成ルヘク英國側ト関係ナキ径路ヲ選定シタキ旨ノ意嚮ヲ洩ラシ其線路ニ付テモ彼は研究中ナルコトヲ申述ヘ同總長ニ於テ頗ル眞面目ニ考慮シツツアリト認メラルルヲ幸ヒ此際本件モ一律今回ノ商議ニ於テ協定ヲ遂ケ置ク方得策ナルヘク殊ニ将来政局ノ伸長ニ伴ヒ万一曹ニシテ交通総長ノ職ヲ去ルガ如キコトアルニ於テハ愈々以テ実行難ニ陥ルコト無シトモ云ヒ難ク旁々此際同時ニ出来得ヘケンハ本協約ノ取極ヲ為シ少クトモ大体ノ具体的了解ヲ著ケ置ク様致シタク御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

九二四

九 対中国借款善後策ニ関スル件（三）八二二

九二六

主張セラレ候へ共一方契約案提出期日切迫セル今日俄ニ満

鉄側ノ主張通り契約案ヲ变更スヘキ時間モ無之旁々小幡公使トモ打合ノ上満鉄側主張事項中尤モ重要ニシテ当然ト認メラル点即チ満蒙四鐵道契約案ニモ濟順高徐ニ鐵道借款契約案第二条第三項ト同文ヲ加入スルコト丈ヲ同意シ

月二十二日付電報第一号ニテ請訓セシ次第ニ有之候へ共貴電ニ依リ其点モ中止致候其他満鉄ノ改正希望点ハ別紙ノ通

リニ有之候、右様ノ次第ニテ兩借款契約案ハ兎モ角前述ノ如ク昨日支那側ニ提出ヲシ満鉄案ハ吉会、山東ニ鐵道トモ關係ヲ有スルコト故東亞興業ノ坂田技師ヲモ加へ緩々審議シ其上小幡公使トモ相談ノ上相当ト認ムヘキ点有之候ヘ

ハ更ニ御指図相受ケ更メテ改正追加案ヲ支那側ニ提出スルコトニ打合ヲ了シ候間左様御承知置被下度候余ハ又々後便可申上候 敬具

八二二 二月六日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

山東鐵道ハ高徐線ヨリ着工開始方竝満蒙鐵道

ハ吉林海竜開原線ヲ最先ニ完成方及長洮線ニ

開シテハ線路変更規定挿入方裏中ノ件

何分ノ義御訓電ヲ乞フ

八二三 二月十一日 内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛（電報）

長洮線ニ閔スル線路変更規定挿入問題及洮熱

線海港連絡線問題ニ閔シ回訓ノ件

第一八三号

貴電第一五一號及第一八六號ニ閔シ

（一）満蒙鐵道契約案ニ山東鐵道契約第二条第三項同様ノ規定

ヲ挿入スルコトハ差支ナシ尤モ該條項ハ山東鐵道濟南延長

線ニ付特ニ必要ヲ感シ交換公文ニ明記セラレタル次第ナル

モ満蒙線ニ在リテハ右程ノ必要モナク且公文ニモ規定セラ

レ居ラザルモノニ付支那側ニ異存アラハ固執セラルニ及

ハズ

（二）洮熱線ノ一点ヨリ海港ニ至ル線ニ付テハ満蒙ノ聯絡、蒙

古ノ開發其他諸般ノ關係ヨリ十分調査ヲ必要トシ今日直チ

ニ決定スルコト困難ニシテ且右貴電ニヨレハ曹汝霖ハ本線

ハ英國側ノ關係ナキ経路ヲ選定シタシトノ意嚮ヲ漏シタル

趣ナルモ該線ハ結局京奉鐵道ト交叉スルノ外ナキニ付全然

英國側ト關係ナキ鐵道ノ線路決定ハ暫ク他日ニ譲ルコト得

策ト思考ス尤モ本線ノ調査ハ成ルヘク速ニ着手セシムルコ

第一八六号
(二月七日接受)
貴電第九六号前段並客年貴電第一二〇二号末段各鐵道工事着手先後如何ニ閔シ卑見ニ依レバ山東ニ鐵道中濟南延長線ハ京漢鐵道トノ聯絡問題ノ外或ハ終點問題ニ付猶ホ多少講究ヲ要スルモノ無キヲ保シ難ク旁々目下内密商議ノ歩ヲ進メツツアル海蘭鐵道問題ヲモ顧慮シ先以テ高密徐州線ヨリ建設ニ着手スルコト得策ナルベク將又滿蒙四鐵道ニ閔シテハ洮熱線ニ就テハ尙ホ篤ト実地踏査ノ必要アルト認メラレ又長洮線ハ目下満鐵ニ於テ内々交渉中ノ四鄭延長線ノ問題ト密接ノ關係ヲ有シ若シ四鄭延長線トシテ議纏マルニ於テハ之ト殆ント平行線ニ過キサル長洮線ノ建設如何ハ頗ル考量ヲ要スヘク旁々先以テ吉林海竜開原線ヲ完成シ以テ吉会満鐵兩鐵道トノ聯絡ヲ図リ鐵道網ノ実現ヲ期スルコト可然シト思考ス尚上記ノ通長洮線ハ四鄭延長線問題ノ進行二伴ヒ自然線路ノ変更ヲ要スルナキヲ保シ難シト想察セラルニ付キ滿蒙鐵道契約案ニモ山東鐵道契約第二条第三項ノ如ク別ニ適當ニ線路ヲ選定シ得ヘキ旨ノ規定ヲ設ケシムルコト得策ナルヘシト思考ス、往電第一五一號洮熱線ノ一地点ヨリ某海港ニ至ル線路ノ決定問題ト共ニ併セテ御考量ノ上

トトスヘシ
(三) 滿蒙四鐵道及山東ニ鐵道工事着手前後ノ件ハ資金ノ關係モアリ目下大藏省ト協議中ニ付決定ノ上ニテ何分ノ義申進スヘシ
八二四 二月十二日 内田外務大臣ヨリ
高橋大藏大臣宛
附屬書 二月三日付山梨陸軍次官ヨリ幣原外務次官宛公
信陸齊第四〇号写
山東ニ鐵道着工順序ニ閔スル件
政機密送第三八号

満蒙四鐵道及山東ニ鐵道ニ閔スル件

本件諸鐵道借款本契約調印ヲ見ルトモ直チニ諸鐵道全部ノ工事ニ着手シ其ノ敷設ヲ圖ラムコトハ我金融其他ノ關係上到底困難ニ付其緩急ヲ圖リ着手線路ニ適當ノ順序ヲ定メザルヲ得ズト認メ先般來在支小幡公使陸軍側及東亞興業會社南満鐵道會社等ノ意見ヲ徵シ置キタル处在支公使ノ意見ハ過般及御送付置候別紙同公使來電第一八六号写ニテ御承認

九 対中国借款善後策ニ関スル件(三) 八二五

九一八 陸軍次官 山梨半造(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

ノ通リニ有之又陸軍省ヨリハ別紙ノ通り回答有之又東亜興業会社ヨリハ濟南延長線ハ線路ノ選定上調査ノ必要モアレハ高密徐州線ノ工事ニ先ツ着手スルコト致度旨申出デ居リ候尚満鉄ヨリハ未タ回申無之候ニ付追テ申出ノ上ハ可及御通報候得共大体満蒙四鐵道中ニ在リテハ小幡公使意見ノ通り先ツ開原海竜吉林線ノ工事ニ着手スルコト然ルヘント存ゼラレ又山東二鐵道ニ在リテハ海蘭鐵道ノ關係ヨリ云ヘハ速ニ高密徐州線ノ工事ニ着手スルコト得策ト認メラルムモ濟南延長線ノ工事ニ先ツ着手シタントノ右陸軍省側ノ意見モ一応尤モニテ且両線併セテ延長比較的短距離ニモ有之旁山東二鐵道ノ方ハ両線トモ借款契約調印後速ニ工事ニ着手スルコト然ルヘシト思考セラレ候処右ニ対シ貴省御意見承知致度ニ付何分ノ義御回示相成度此段申進候也

註 小幡公使來電第一八六号前出ニ付省略ス

(附屬書)

陸軍省陸密第四〇号
送達

山東二鐵道借款問題ノ件回答

大正八年二月三日

別紙写

(二月四日接受)

(二月四日接受)

八二五 二月二十日 内田外務大臣宛(ヨリ)
在中国小幡公使死(電報)
山東二鐵道敷設ヲ中日実業ニ於テ担任スル様
中国政府希望ノ真相突止方督促ノ件

第二六七号

往電第一一二号ノ件其後如何相成タルヤ支那公使館側ニ回答ノ都合モアルノミナラズ当地ニ於ケル關係者商議進行ト

ノ関係モアレハ可成速カニ承知致度シ

八二六 二月二十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

山東二鐵道敷設ヲ中日実業ニ於テ担任スル様
中国政府希望ニ付回申ノ件

第二七七号

(二月二十八日接受)

八二七 二月二十八日 斎藤與銀秘書役(ヨリ)
栗野書記官殿
滿蒙四鐵道借款關係公債ノ發行ニ關シ井上横浜正金頭取ヨリ土方三行代表者宛書信写送付
ノ件
附屬書 一月三十一日付右書信第一七号写

大正八年二月二十八日

政務局 栗野書記官殿

秘書役 斎 藤 力

拝啓満蒙四鐵道借款關係公債發行ノ件ニ關スル三行宛横浜正金銀行來信写茲許同封貴覽ニ供シ候 敬具
(附屬書)

一月三十一日附井上横浜正金頭取ヨリ興銀、台銀、鮮銀三行代表者土方興銀給裁宛書信

第一七号

拝復本年一月九日付貴信支借第二九八号ヲ以テ御来示ノ左記四鐵道中第一ヨリ第三ニ至ル三鐵道ノ借款契約ニ關シテハ大正三年四月十日在北京日本帝国公使館ヨリ公文ヲ以テ支那政府外交部ニ通牒相成候通り弊行之力当事者トシテ交渉ノ局ニ當ルヘキ筈ノ處實行ニ於テハ此通牒ノ存立ヲ御承

九 対中国借款善後策二関スル件(三) 八二八

九三〇

知無之右鐵道借款予備契約締結ノ上既ニ一部前貸金ノ交付
ヲ了セラレタル今日ニ付前記鐵道公債ノ発行ヲ承認可致旨
敬承仕候右ハ総テ貴行ニ於テ政府ノ御方針ニ基キ御進捗相
成候事ト承知仕候ニ付弊行ニ於テハ何等異存無之此段貴酬
申進候 敬具

左 記

- 第一、熱河ヨリ洮南ニ至ル鐵道
- 第二、長春ヨリ洮南ニ至ル鐵道
- 第三、吉林ヨリ海竜ヲ經テ開原ニ至ル鐵道
- 第四、熱河鐵道ノ一地点ヨリ某海港ニ達スル鐵道

以 上

大正八年一月三十一日

横浜正金銀行

頭取 井 上 準之助

株式会社 日本興業銀行

株式会社 台湾銀行

朝 鮮 銀 行

右三行代表者

株式会社日本興業銀行

聽從致候様相成可申カト存セラレ候

然レ共又一面ヨリ考へ候へハ支那政府カ巴里會議ノ決定ニ

調印シ國際聯盟ニ加入致スヘキハ予想ニ難カラサル儀ニ候

処聯盟加入後万一年後ノ條約ハ凡テ聯盟會議ニ附スヘキ事

ヲ申立テ山東二鐵道契約モ國際條約ノ一種ナリト云フカ如

キ見解ヲ附シ同會議ニ提出スルコトヲ主張致候様ノ事モ有

之候ハバ更ニ解決ヲ遷延セシメ我方ノ不利トナルノ虞有之

候ニ付寧口此際吉会鐵道同様ニ速決致候方却テ有利ナルニ

アラザルカ考慮ヲ要セラルヘキ儀カト存候

會計主任運輸主任ハ必要ニハ相違ナク幸ニ今回吉会線ニ對

スル我ノ讓歩ニ酬ヒ山東二線ニ對スル我ノ提議ヲ容ルルニ

於テハ論勿キモ万一支那側ニ於テ吉会線ニ對スルト同様其

主張ヲ固持スルニ於テハ勢契約締結ヲ遷延セシムル恐アル

ニ付斯ル場合ニ際シテハ主任ノ設置ヲ必ズシモ契約本文

中ニ規定セズトモ後日必要ノ際ニ当リ別途ノ方法ニ依リ双方充分ノ理会ヲ以テ事實上是ニ類スル申合セヲ為シ得ヘキ

見込モ有之候ハバ吉会鐵道ニ對スル御解決案同様本契約ニ

是ヲ規定スルコトハ讓歩致候テモ差支ナカルヘキカト存候勿論是等ノ諸点ニ付テハ充分御考究ノ上御立案相成候儀ト

總裁 土方久徵殿

註 日本外交文書大正三年第二冊一五文書附屬書二參看

八二八 五月二十二日 荒井東亞興業社長ヨリ
埴原政務局長宛

山東二鐵道借款本契約ニ於ケル会計運輸両主

任問題ニ關シ意見回申ノ件

山東二鐵道ニ關スル御諮詢ニ對シ

目下北京ニ於テ交渉中ナル各鐵道借款本契約條項中會計主任及運輸主任ニ關スル規定ニ付吉会鐵道ニ對シテハ支那側

ノ主張ヲ容レテ是ヲ讓歩シ山東二鐵道及滿蒙四鐵道ニ對シ

テハ斷然其主張ヲ却ケテ是非共右ニ關スル規定ヲ設ケシム

ル事ニ御決定可相成御腹案ノ趣及是ニ對スル弊社ノ意見御

下問ノ次第謹テ拝承致候

御垂示ニ基キ四周ノ状勢ニ鑑ミ考究致候ニ今日ニ於テハ支那政府モ帝国政府ノ声明ニ依リ可成速ニ青島ノ還附ヲ受ケンコトヲ希望致シ居ルヘク而カモ其還附ハ山東二鐵道契約其他山東省ニ關スル諸問題解決後ニ非ザレバ是ヲ実現シ能ハザルヘキ事モ凡覺悟致居ルヘク候間自然青島還附ノ速決ヲ希望致候丈ニ山東二鐵道借款契約ニ付テモ結局我主張ニ

ハ拂察致候得共御下問ニ對シ卑見具申致候次第ニ御座候

敬具

大正八年五月二十二日

東亞興業株式会社

社長 荒井賢太郎(印)

外務省

埴原政務局長殿

八二九 六月十日 在中國小幡公使ヨリ

吉会線契約成立ノ上ハ引続キ滿蒙山東諸鐵道

借款本契約交渉ヲ開始セシムヘキヤ請訓ノ件

(六月十一日接受)

満蒙山東諸鐵道借款本契約締結方ニ付テハ本年一月我方ヨ

リ契約案ヲ提出シタル儘ニテ今日ニ及ヒ居ル次第ノ處目下

懸案中ノ吉会線契約成立ノ上ハ直ニ引續キ前記諸鐵道本契

約締結ノ交渉ヲ開始セシムヘキヤ為念何分ノ儀御電示置キ

アリタク卑見ニ依レハ少クトモ満蒙四鐵道中洮熱線ノ一地

点ヨリ某海港ニ到ル一線ノ選定方ニ付テハ往電第八三八号

ノ通最近朝陽錦州線敷設ノ議進捗セラレ一方連山灣築灣問

九 対中国借款善後策二関スル件(三) 八三〇 八三一

題モ漸ク活氣ヲ帶ヒ來リタル折柄我方予定線ノ如キモ速ニ
支那側トノ間ニ諒解ヲ遂ケ置ク事得策且必要ト思料セラル
ルニ付テハ其ノ辺御考慮ノ上何分ノ儀御電訓ヲ請フ

八三〇 六月十二日 内田外務大臣ヨリ
高橋大蔵大臣宛

満蒙山東諸鉄道借款本契約ニ於ケル運輸会計

兩主任問題善後案二対シ意見回示方依頼ノ件

附屬書 滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題善後案

政機密送第一七一号

満蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題二關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ及御打合置候通別紙甲号写ノ通ノ方針ニテ措置スルコト然ルヘシトノ意見ニ有之候處其後山東二鐵道ニ付東亜興業会社ヨリ別紙(註)乙号写ノ通申出アリタルガ吉会鐵道ニ付テハ同予備契約ニ於テ本契約ハ津浦鐵道ニ準スヘキ旨ノ規定アル為余儀ナク先般御協議ニ及ヒタル通ノ方針ニテ措置スルコトト相成タルモ山東二鐵道ハ吉会鐵道トハ事情ヲ異ニスルヲ以テ矢張リ別紙甲号案ノ通措置スルコト然ルヘシト被存候處右ニ付スル貴見承知致度ニ付何分ノ義御回示相成度此段申進候也

主任問題二關スル措置方ニ付回答ノ件
官房秘乙第一三七五号 (六月二十一日接受)

満蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題二關スル件

本件ニ關シ本月十二日附政機密送第一七一号ヲ以テ御照会ノ趣了承御申越ノ通措置方異存無之候間右様御承知相成度此段及御回答候也

大正八年六月二十日

大藏大臣男爵 高橋是清 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

八三一 六月二十日 荒井東亜興業社長ヨリ
内田外務大臣宛

山東鐵道借款契約交渉ニ關シ濟順線二代フル

二濟道線ヲ以テスベキ旨意見上申ノ件

附屬書 右意見書「山東二鐵道ト道清鐵道ニ關シ」

濟順線ニ關シ別紙ノ通り卑見具申致候間宜敷御詮議被成下度此段得貴意候 敬具

大正八年六月二十一日

東亜興業株式会社

社長 荒井賢太郎 (印)

九 対中国借款善後策二關スル件(三) 八三二

註 別紙乙号ハ前掲八二八文書ト同文ナルニ付省略ス
(附屬書)

別紙甲号写

満蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題善後案

吉会鐵道ハ予備契約ノ關係上運輸會計兩主任ニ付スル問題ニテ交渉ヲ我方ヨリ打切ルハ聊カ我立場上不利ナルヲ免レサルニ付前記ノ通リ措置スルコトトスルモ満蒙四鐵道及山東二鐵道問題ハ当初ヨリノ行掛ヲ異ニスルヲ以テ若シ支那側ニ於テ此等諸鐵道運輸會計兩主任ニ付故障アラハ飽ク迄我主張ヲ固執シ万已ムヲ得サル場合ハ暫ク交渉ヲ見合ハスノ方針ニ出ツルコト然ルヘク仍テ是等諸鐵道交渉開始ニ当リテ先ツ主義問題トシテ同契約ノ標準ハ四鄭鐵道乃至浦信鐵道借款契約ヲ以テスヘキコトヲ主張シ支那側ニ於テ到底同意セザルトキハ予備契約所定ノ期限ヲ一定期間延長シ懸案ノ儘一先ツ交渉ヲ見合ハセ暫ク他日適當ノ機會ヲ俟ツコトトスヘシ

八三一 六月二十日 高橋大蔵大臣ヨリ
内田外務大臣宛

満蒙山東諸鉄道借款本契約ニ於ケル運輸会計

九三三

九 対中国借款善後策二関スル件(三) 八三一

ヘキナリ

道清鉄道ハ元ト福公司(北京シンヂケート)カ山西運礦ノ目的ヲ以テ敷設シ後利權回収熱勃興ノ際支那政府是ヲ買收シタルモノニシテ買收ニ關スル借款關係上其經營權ハ依然福公司ノ握ル所ナリト雖今其借款契約ニ就テ見ルニ一九年六年以後ニ於テハ支那政府ハ隨意未償還額ノ全部ヲ償還シ營業權ヲ回収シ得ルノ規定アルヲ以テ支那政府ニシテ其意图アリ資金アラハ其營業權ヲ回収シ済道線ヲ採択シテ是ヲ併セ經營スルコト決シテ難キニアラザルナリ
翻テ山東二鐵道交渉ノ前途ヲ推測スルニ支那当局ハ借款本契約項中ヨリ会計主任及運輸主任ニ關スル規定ヲ排除セシコトヲ主張シ吾ニ於テ是ニ讓歩スルニアラザレハ容易ニ解決ノ見込ナキモノノ如シ然ルニ会計主任及運輸主任ハ固ヨリ必要ナリト雖後日必要ノ場合別途ノ方法ニ依リ事實上是ニ類スル申合ヲ為シ得ヘキ見込アルニ於テハ必シモ本契約中ニ是ヲ規定スルヲ要セザルヘキヲ以テ本件ニ付テハ先方ノ主張ニ讓歩スルモノト仮定シ是カ交換条件的ニ支那政府ヲシテ済道鐵道ノ採択及道清鐵道營業權ノ回収ヲ決行セシムル事機宜ノ策ナルヘキカト思考ス

福公司ハ前記買收ニ關スル一九〇五年ノ借款契約ニ依リ道口鎮ヨリ沢洲ニ至ル鐵道借款優先協議權ヲ有シ又一九〇七年ノ山西採礦權回収ニ關スル契約ニ依リ山西省内ニ於ケル鐵道借款優先協議權ヲ有スルニ由リ道清鐵道營業權ノ回収ノミヲ以テ済道線ノ前途ニ横ハル障礙ヲ除去スルモノト云フ能ハザルモ而カモ該營業權ノ回収ハ済道線ノ前途ニ關シ自然福公司トノ間ニ於ケル解決ヲ容易ナラシムルノ利益アリ
因テ支那当局ニ對シ當方ハ契約本文ニ会計主任運輸主任ニ關スル規定ヲ設クヘシトノ主張ヲ撤回スル場合は力交換条件シテ先方ハ道清鐵道營業權ヲ回収シ當然同一系統タルヘキ済道、道清二鐵道ヲ併セテ支那自ラ是ヲ經營セシコトヲ要望スルヲ可トセシ
而シテ之カ実行方法トシテハ
一、山東二鐵道借款額ハ其所要金額ニ道清鐵道借款未償還額約金七百六拾万円ヲ加算シテ決定シ是ヲ以テ營業權ノ回収ヲナシムヘキコト
二、道清鐵道ハ前記借款ノ担保ト為スヲ避ケ以テ福公司ノ優先權ト抵触スルコト無カラシムルコト

ヲ定メ是ニ適應セシムル為メ山東二鐵道契約中ニ適宜左記ノ如キ条項ヲ加フルヲ要ス

一、本鐵道ノ建設及設備完成後本借款金額中使途ヲ有セアル剩余金ヲ生シタル場合ニハ之ヲ本鐵道ニ對スル營養線ヲ得ルノ資ニ充ツルヲ得

二、政府ニ於テ自ラ道清鐵道ノ管理經營ヲ為ス場合ニ於テハ政府ハ濟道道清二鐵道ヲ一管理機關ノ下ニ置キ両者ノ統一的發達ヲ期スヘキモノトス
以上二項ヲ規定スルニ於テハ兩者同一管理機關ノ下ニ置カルヘク從テ鐵道勘定ハ各線各別トナス場合ニ於テモ吾ハ道清鐵道ニ對シ或程度ノ會計監督權ヲ行使スルヲ得契約ノ欠陥ヲ補フヲ得ヘキヲ以テ所期ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ

八三一 六月二十六日 内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛(電報)

満蒙山東諸鐵道借款契約ハ吉会線契約成立ノ上ハ引続キ交渉開始方並四鄭乃至浦信鐵道契

約ヲ標準トスルコトニ原則的協定方回訓ノ件

第八五一号

貴電第八四三号ニ閲シ

九三四

目下懸案中ノ吉会鐵道契約成立ノ上ハ直チニ引続キ満蒙四鐵道及山東二鐵道ニ付交渉ヲ開始セシメラレ差支ナシ又吉会鐵道ハ予備契約ノ關係モアリ往電第七二七号ノ通リ運輸會計主任ヲ留保シ交渉ヲ進捗セシムルコトニ決シタル次第ナルモ滿蒙四鐵道及山東二鐵道問題ハ吉会鐵道トハ当初ヨリノ行掛ヲ異ニシ現ニ予備契約ニモ津浦鐵道ヲ標準トス已定ノ方針通り四鄭鐵道借款契約ヲ標準トシ是非共運輸會計兩主任ヲ備聘セシムルコト致度就テハ滿蒙四鐵道及山東二鐵道ニ付交渉開始ニ当リ先ツ主義問題トシテ此等鐵道契約ノ標準ハ四鄭鐵道乃至浦信鐵道借款契約ヲ以テスヘキコトニ協定スルコト致度万一支那側ニ於テ右協定殊ニ運輸會計兩主任ノ件ニ付故障アルトモ飽迄我主張ヲ固執シ万已ムヲ得サル場合ニハ予備契約所定ノ期限ヲ一定期間延長シ懸案ノ儘一先ツ交渉ヲ見合ハセ暫ク他日適當ノ機會ヲ俟ツコトト致度ニ付右岩佐理事ニ伝ヘラレ必要ノ際右ニヨリ措置セシメラレ度尚申ス迄モナキコトナカラ貴官ニ於テモ適宜援助ヲ与ヘラレ度シ尚滿蒙四鐵道中洮熱線ノ一地點ヨリ海港ニ至ル線以外ハ大正二年山座公使ト支那政府トノ間

九三五

九 对中国借款善後策 二閥スル件 (三) 八三四 八三五 八三六

ニ成立セル大綱規定線路ノ大部分ニ該當セルノミナラス事
実上前記四鐵道ハ右大綱ニ胚胎セルモノナル處右大綱ノ規
定及大正四年十二月十七日四鄭鐵道借款契約附屬甲号往復
書ニ徵スルモ右海港線ハ兎モ角其ノ他ハ浦信乃至四鄭鐵道
借款契約ヲ以テ標準トスヘキコトヲ主張スル一根拠タルヲ
得ヘク又山東二鐵道ニ付テハ大正二年支那政府ト独逸公使
トノ間ニ成立セル取極ニヨレハ御承知ノ通り海蘭鐵道借款

契約ヲ標準トシ且技師長運輸主任会計主任ニハ独逸人ヲ使
用スル旨明記シアル次第二付必要ノ場合ニハ此ノ点モ我ニ
於テ援用主張シ得ヘシ右御令申添ユ尚右貴電第八四三号
後段海港ニ至ル線路選定ノ件ニ付テハ満鉄ヨリ申出ノ次第
モアリ追テ別電ヲ以テ申進スヘン

八三四 六月二十八日 塙原政務局長ヨリ
荒井東亞興業社長宛

山東二鐵道借款契約問題ニ閥シ外務省決定通
報ノ件
拝啓陳者大正七年九月二十八日予備契約締結セラレタル山
東二鐵道借款問題ニ付テハ五月二十二日付貴信ヲ以テ御申
出ノ次第アリタルモ當省大臣及大藏大臣協議ノ結果別紙写
モアリ追テ別電ヲ以テ申進スヘン

八三五 六月二十八日

塙原政務局長ヨリ

野村満鉄社長宛

満蒙四鐵道借款契約問題ニ閥シ外務省決定通
報ノ件
拝啓陳者大正七年九月廿八日予備契約締結セラレタル満
蒙四鐵道借款問題ニ付当省大臣及大藏大臣協議ノ結果別紙写
ノ通り在支小幡公使ニ電訓相成候ニ付右様御承知相成度此
段申進候也

註 別紙ハ前出在支小幡公使宛電報第八五一號ノ「バラフレー
ズ」ナリ

八三六 七月一日 内田外務大臣宛

山東二鐵道其他ニ付徐總統ノ山東人民學生ノ
代表者ニ対シ為シタル答弁ニ閥スル新聞記事

報告ノ件

附屬書 六月二十九日付「ノース・チャイナ・スター」

紙掲載路透通信記事写

公第二五四号

大正八年七月一日

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(丑)

外務大臣子爵 内田康哉殿

徐總統ノ山東其他ノ代表者ニ対スル答弁ニ閥スル路透

通信ノ件

本件路透通信中高密徐州線及山東鐵道延長線ノ件ニ閥シ外
交部ト當館トノ間ニ交渉中云々ト徐總統ニ於テ答弁シタル
趣ノ記載アルニ対シ兎ニ角當館ノ閥スル限り右様交渉ノコ
トナキ旨該通信員ヘ申聞タル次第ハ住電第九二九号ヲ以テ
及報告置候処右通信ハ別紙写ノ通ニ有之候条右茲ニ及御送
付候間御查閱相成度此段申進候也

(附屬書)

六月二十九日附北支スター紙掲載路透通信記事

(NORTH CHINA STAR) June 29th, 1919.

九三六

ノ通り在支小幡公使ニ電訓相成候從テ又六月二十一日付貴
信ヲ以テ申出テラレタル道清鐵道官業権回収ノ件モ詮議致
難ク候ニ付右様御承知相成度此段申進候也

註 別紙省略ス該別紙ハ在支小幡公使宛電報第八五一號(八三
三文書)ノ「バラフレーズ」ナリ

八三五 六月二十八日

塙原政務局長ヨリ

野村満鉄社長宛

満蒙四鐵道借款契約問題ニ閥シ外務省決定通
報ノ件
拝啓陳者大正七年九月廿八日予備契約締結セラレタル満
蒙四鐵道借款問題ニ付当省大臣及大藏大臣協議ノ結果別紙写
ノ通り在支小幡公使ニ電訓相成候ニ付右様御承知相成度此
段申進候也

註 別紙ハ前出在支小幡公使宛電報第八五一號ノ「バラフレー
ズ」ナリ

八三六 七月一日 内田外務大臣宛

山東二鐵道其他ニ付徐總統ノ山東人民學生ノ
代表者ニ対シ為シタル答弁ニ閥スル新聞記事

Abrogation of Rail Agreements possible

China Negotiates with Japanese Legation on Shan-
tung Rail Rights

Reuter's Service

Peking, June 28.—Delegates representing the

Students and the people of Shantung were received
this morning by President Hsu Shih-chang in the

Huai Jen Tang. They repeated their requests, pre-
viously made to a Secretary of the President, that:

1. The Government would not authorize the sign-
ature of the Peace Treaty without reservation re-
garding Shantung.
2. The Government would take steps to secure
the abrogation of the Kaomi-Hsuchow and Tsinan-
Shuntee Railway Agreements.
3. The Internal Peace Conference be reopened
as soon as possible.

In reply the President stated that the Govern-
ment was in favour of signing the Peace Treaty with

reservation regarding Shantung, but actual position in Paris at the present moment was not known.

With regard to the Kaomi-Hsuchow and Tsinan-

Railway Agreements, the President said that negotiations were in progress between the Wai Chiao Pu and the Japanese Legation and it was by no means impossible that the Agreements would be abrogated.

With reference to the Internal Peace Conference, some of the Northern Delegates, said the President, had already left for the South and the Conference might be reopened at any moment.

Three of the Shantung Delegates appeared satisfied with the President's answer but the other two, bowing their heads to the ground, appealed to the President to save Shantung. In the face of this display of emotion the President retired. The delegates representing the Students and other Bodies are still waiting for a more definite assurance from the President regarding Shantung and refuse to leave the

gate of the Palace until their demand has been complied with.

四' 黑森林金鉱借款關係

ハ三七 一月四日 在チチハル田中領事館事務代理ヨリ
黒竜江省ニ於ケル松下林区取消ニ關シ報告ヘ生
本第1号

大正八年一月四日 (一月十三日接続)
在齊々哈爾

領事館事務代理 田中 作(五)

外務大臣子爵 内田康哉殿

松下林区取消ニ關シ報告ノ件

從來当黒竜江省ニ於ケル林区ノ松下ニ關シテハ手続上ノ不備ハ勿論其他内面頗ル紊乱シタルモノノ如カリシカ其後農商部ト当省々長トノ意見漸次接近シタルモノト見エ客年八月現任林務局長錢德芳ガ事務引継後先ツ該局ヲ哈爾賓ヨリ当省城ニ遷移スルコトトナリ爾來極力之力整頓ニ努メタル結果客年十月当地林務局ニ於テ既ニ手續ヲアシタルモノニ

大正八年一月十八日

副總裁 小野 英二郎

政務局長 塙原正直殿

拝啓吉黑両省森林局及採金局ニ聘用スヘキ技師ノ俸給及其他待遇条件及両省ニ於テ既ニ政府ノ認可ヲ得テ經營シ居ル金鉱及森林ノ明細書ニ關シ本日柿内匯銀専務理事ヨリ別紙写シノ通り通知有之候間供貴覽候也

(欄外註記)

一 「予テ関係省大臣協議ノ趣旨ニ基キ此上何等ノ措置ヲモ執 ラザル様外務省又ハ大蔵省ヨリ三銀行へ篤ト申入ルルコト (小村課長)」

二 「大蔵省ヲシテ示達セシムルコト可然 (埴原局長)」

(附屬書)

秘第一号

大正八年一月九日

中華滙業銀行

専務理事 柿 内 常次郎

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徴殿

秘第参考

九 对中国借款善後策ニ關ヘル件(四) ハ三八

附属書 一月九日付柿内滙業銀行専務理事ヨリ土方興銀

総裁宛秘第一号信

吉黑両省森林局採金局ノ聘用技師待遇条件及
同省ノ金鉱森林經營ノ明細書請求ニ対スル中
因側回答文送付ノ件

ハ三八 一月十八日 小野興銀副總裁ヨリ
埴原政務局長宛

九 对中国借款善後策ニ關ヘル件(四) ハ三八

九三九